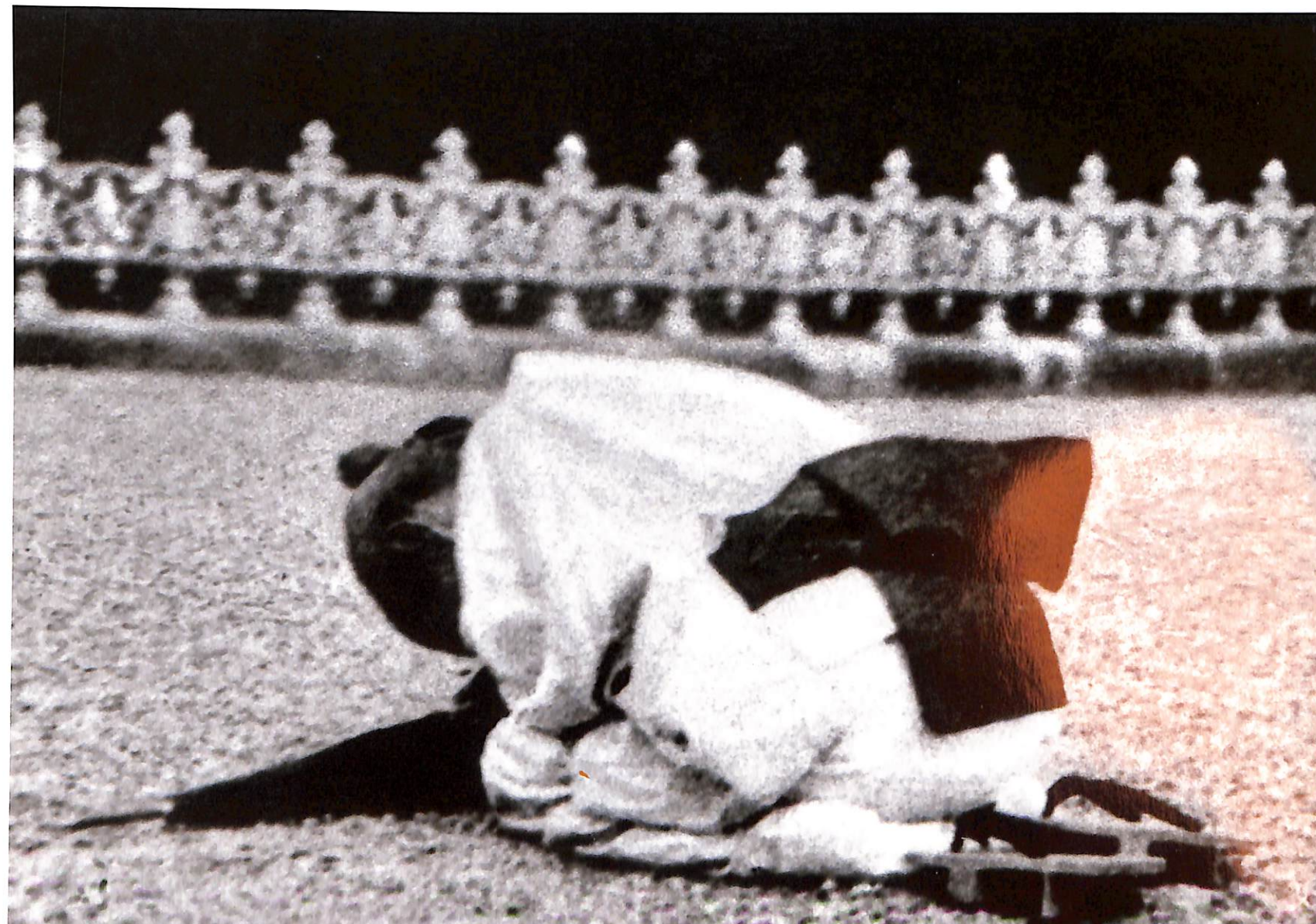
週刊 YEARBOOK

1912
大正元年

日録20世紀

8|4
平成10年8月4日発行
(毎週1回発行)第2巻第29号
¥560
講談社

明治天皇崩御!

白瀬南極探検隊、氷原280キロを踏破!
大阪に娯楽の殿堂「新世界」「吉本興行」誕生
犠牲者1513人!「タイタニック号」の悲劇

「遂に30日午前零時43分　心臓麻痺により……」
凄惨なフィナーレで飾られた「明治」の終焉

明治天皇崩御と乃木大将殉死！

▲明治天皇の大喪は、大正元年9月13日、東京で行われ、霊柩は翌日、天皇御陵となる京都・伏見桃山陵へ向かった。写真は桃山陵道にさしかかった霊柩。「イリュストラシオン」

質素倹約のため、宮中の照明を電灯から西洋蠟燭に替え、日露戦争前には、伊藤博文に「朕がロシア皇帝に親電を送っても（戦争回避は）だめか？」とたずねた明治天皇。風貌、人柄ともに〝大帝〟の風格を備えていたと言われる天皇崩御の最終章を強烈に飾ったのは、ある老将軍の〝血潮のフィナーレ〟だった。

儀式・国務の都合から遅らされた死亡時刻

「宮城前の草原には、陛下の病気恢復を祈る人々の群が、朝から晩まで続いた。彼らは草の上に坐って神仏に祈禱し、胸を打ったりおじぎをしたり、また泣いている者もあった」（生方敏郎『明治大正見聞史』）

明治四五年七月末の日本列島は、何とも重い空気がたれこめていた。二〇日に天皇睦仁（五九）が、糖尿病の悪化で重症の尿毒症にかかっていることが判明し、翌二一日には、「東京朝日新聞」が「聖上陛下御重体　一四日より御臥床あり」と号外を出していたからである。

天皇睦仁は、七月初旬から体調を崩し、一〇日の東京帝国大学卒業式には、いつもは直立不動でのぞむのだが、椅子で臨席。一五日の枢密院会議では居眠りをして、議長の山県有朋（七四）が床を軍刀でたたき、目をさまさせる一幕もあった。

嘉永五年（一八五二）九月二二日、孝明天皇の第二皇子として誕生し、一六歳で皇位を継承。それ以後、明治維新から大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、宮中大改革と、天皇は黎明期の近代日本

▲崩御の前年、明治44年11月14日、九州・久留米郊外で実施された陸軍特別演習での明治天皇（写真中央）。「写真五拾年史」

明治神宮蔵

◀燕尾形正服。明治五年、九州巡幸の際に着用。明治天皇が洋服を着用した最初のもの。

◀栗田口綾子へ天皇から下賜された煙草盆。黒塗金蒔絵花鳥山水之図。明治神宮蔵

▼明治天皇が愛用された遺品の御文庫。竹製である。

明治神宮蔵

▶最晩年の明治天皇。天皇には、ポーズをとった写真は少ない。

◎表紙　天皇崩御の知らせに、宮城前で土下座する老女。この日、日本列島全体は悲しみの色に包まれた。

「遂に30日午前零時43分 心臓麻痺により……」
凄惨なフィナーレで飾られた「明治」の終焉

明治天皇崩御と乃木大将殉死!

▲明治天皇のご遺体に対する最後のお別れは9月12日から宮城で行われ、各界の名士3000人が拝礼した。写真は参内の様子。「写真タイムス」

を疾走してきた。

「伊藤博文をはじめとする元老に自分が神格化され、政治利用されていることを明治天皇は十分意識していました。軍服姿の堅苦しいイメージが強いのですが、実際は自由闊達で一本気、ユーモアも解する人物。その人柄は、多くの人々に敬愛されていたようです」と語るのは、京都大学の飛鳥井雅道教授である。

その波乱の治世四五年に終止符が打たれたのは、明治四五年七月二九日午後一〇時四三分のことだった。

七月三〇日午前一時すぎ、宮内省は、「遂に三〇日午前零時四三分心臓麻痺により崩御遊ばさる、誠に恐懼の至りに堪えず」と、儀式・国務の都合で天皇崩御の時間を二時間遅らせて発表。その直前の午前一時に皇太子嘉仁（三三）が新天皇になる「践祚の儀」がとり行われた。

徳川夢声は『明治は遠くなりにけり』に、当時を次のように綴っている。

「悲痛な思いと、何かこうはずんだ気持ちで外に出た。すると、人力車宿『みやこ』のオヤジが、大声をあげて女房とやり合っていた。私は、ツカツカと歩みよって、『陛下がオナクナリになったというのに、何ゴトです！』と叱りつける。オヤジは恐縮して、おとなしくなった」

街の夫婦喧嘩も止むほどの悲愴感におおわれた日本列島では、勅令により囚人の服役・死刑の執行が停止された。

◀大喪の日、人々は別れを告げるために、朝早くから沿道に出て、霊柩を待った。写真は警視庁前で。
毎日新聞社

第二九議会はさっそく、大喪費一五〇万五三八九円を可決。青山葬場殿（現・明治神宮外苑）での斂葬（本葬）など、三ヵ月間にわたる大喪が始まった

政治的に徹底利用された天皇への老将軍の忠誠心

この年九月一三日、午前七時、乃木希典陸軍大将（六二＝学習院院長を兼務）の東京・赤坂にある邸宅を写真師が訪れ、軍服姿の乃木大将と静子夫人（五四）を撮影していた。そして、午前一〇時、夫妻は明治天皇の遺体が宮城を出立して青山葬場殿に運ばれる「殯宮祭」に参列。

邸宅に戻って、夕方には夫人の姉、娘の四人で赤ワインを飲みながら晩餐をとり、家人に大喪へ出かけるように勧め、夫妻は二階の居室に上がっていった。

「今夜だけは……」――階下にもれ聞こえる夫人の声と、夫妻の強い調子の会話、奇妙な静寂――。異変を察した家人が居室へ入ると、夫人は、胸に短刀を突き刺したまま、うつ伏せに倒れていた。大将の方は礼装の上着を脱いで、軍刀で腹部を左から右に斬り、その後、喉に刀を突き刺し、右から左に一気にはねていた。部屋は血でひたされていたという。

乃木大将は死の数日前に、皇太子迪宮裕仁（一一）を訪ね、君主論が記された山鹿素行の『中朝事実』など二冊を贈呈。軍事審議官の大将らに、別れの言葉も残していた。覚悟の殉死だった。

「うつし世を神さりまし大君のみあとしたひて我はゆくなり」――辞世の句と遺書が、自決の現場に残されていた。

「明治一〇年、西南戦争で軍旗を奪われ、さらに明治三七年の日露戦争では、大量の死者を出す。軍事的には無能という定説があった乃木大将を、つねにかばったのは天皇でした。殉死は、乃木の天皇に対する愚直なまでの忠誠心と個人的愛情が原因だったと思います」（飛鳥井教授）

乃木殉死は庶民に賞賛され、乃木神社まで創建されることになるのだが、同時にその死は、さまざまな論議も呼んだ。

夏目漱石は作品『こゝろ』の登場人物に、「（死ぬ機会を待っていた乃木さんにとって）生きていた三十五年が苦しいか、また刀を腹へ突き立てた一刹那が苦しいか、何方が苦しいだろうと考えました」と語らせ、森鷗外は、『興津弥五右衛門の遺書』の中で乃木の武士道をたたえた。

一方で、殉死を冷ややかな眼で見ていた志賀直哉などは、「馬鹿な奴だ」と八月一四日の日記に残していた。

ところが、明治の終焉に凄惨なフィナーレをつけ加えた乃木の殉死は、皮肉なことに、彼の天皇への素朴な敬愛の情とはかけ離れたところで、政治的に利用されることになる。

▲9月13日、大喪の日、乃木大将夫妻は礼装に身を固めて記念の写真を撮った。同日午後、夫妻は自刃する。

「つまり、すでに政治的、軍事的な権威者であった天皇が、国民の生命までも左右する存在へ飛躍するきっかけになったのが乃木の殉死でした。これ以降、天皇にすべてを捧げるのが〝明治の精神〟と言われるようになります」（飛鳥井教授）

神秘化によって、天皇に不可侵の権力を持たせ、裏で実権を握ってきた政治家や軍人が、今度は、軍備拡大や帝政の定着に、乃木殉死を徹底利用するのである。

天皇のより近くへ――。こうした策略が、大正から昭和にかけて、絶対的な権力「統帥権」を持つ天皇をめぐっての熾烈な政争へと発展していった

明治天皇と肖像写真

明治天皇の肖像写真には、明治5年に撮影された燕尾形正服姿や束帯姿（下写真・撮影は内田九一）、明治6年の馬上姿のほかに、日露戦争凱旋観兵式や陸軍演習の際に撮られたものなどが残っている。皇子や皇孫に関しては、その成長過程をこまめに撮影させていた天皇だが、こと自身に関しては撮られるのを嫌ったようだ。特に晩年はその傾向が顕著で、伊藤博文が宮内大臣の頃（明治18年12月～20年9月）に撮影を奏請しても許さなかった。さらには、日露戦争後に侍従長の徳大寺実則が宮中に臨時写真所を設けて撮影を進言すると、「写真か……」と苦笑したのみで、結局撮らせることはなかったという。

そこで国外からの要望で天皇の肖像画を欲していた徳大寺と宮内大臣の土方久元は、「内緒のうちにひそかに拝写するしかない」と相談。会食中の天皇をイタリア人のエドアルド・キヨッソーネに隣室からスケッチさせ、その原画を撮影したという逸話がある。

▲明治5年に撮影された束帯姿の明治天皇。20歳の時である。

9日間で氷原を280キロ踏破 南緯80度5分、西経154度の地に日章旗 白瀬矗と隊員26人の果敢な南極探検!

▲突進隊は、基地出発から9日目の1月28日、南緯80度5分の地に到着、日章旗を立てた。写真左から、武田輝太郎学術部長、白瀬隊長、三井所清造衛生部長。 白瀬南極探検隊記念館提供

明治四五年一月二八日、日章旗が南極の地に翩翻とひるがえった。東京・芝浦を出帆して約二年後、最初の失敗にくじけず、二度目の挑戦で南極の地を踏破した白瀬中尉の奮闘は、極点をきわめたノルウェーのアムンゼン、イギリスのスコットと並び称される歴史的壮挙であった。

◀南極探検隊の一人、花守信吉と樺太犬。南極では二台のソリと三〇頭の樺太犬が活躍した。 毎日新聞社

竹竿に日章旗を結び「大和雪原」と命名!

「日本開国以来、真にわれらをおいていまだこの境を突破せるものあるなし。有史以来の歴史に不朽の一ページを残せる一日というもあえて誇言にあらじ」

◀品川の探検隊宿舎で、出発前に撮影。白瀬(写真)と26人の隊員は、明治43年11月29日、「開南丸」で芝浦を出港。 白瀬南極探検隊記念館提供

明治四五年一月一六日、白瀬矗中尉(五〇)率いる南極探検隊が、南緯七八度三分の鯨湾に到着。白瀬は後にその時の心境を、『南極探検』の中でこう記した。

翌一月一七日から一八日にかけ、氷原上への探検物資の運搬が始まった。隊員たちは、六〇キロもある荷物を背負い、長い金剛杖を突きさし、掛け声をかけ合いながらボートと氷原を十数回往復し、天幕、食料、被服などを運び上げた。

一月一九日、いよいよ突進隊が極点をめざすことになった。メンバーは白瀬隊長のほかに、武田輝太郎学術部長(三三)、三井所清造衛生部長(三四)、犬係の山辺安之助(四四)と花守信吉(三二)の五人と犬二三頭であった。

一行は、厚手の防寒衣に毛皮の靴、眼鏡で目をおおっての重装備で、犬にソリを引かせて出発。お互いに腰と腰を縛って、氷の亀裂を警戒しながら進んだが、前進三日目に大吹雪に遭遇し、危機一髪の状態におちいった。前後左右とも視界はまったくない。身体は今にも凍りそうであった。しかし白瀬らは、その後も前進、一日平均で約四〇キロを踏破し、九日目の一月二八日、出発地から約二八〇キロの地点に到達。南緯八〇度五分、西経一五四度。極点から約一一〇〇キロの地点である。

白瀬は、そこを日本探検隊の最終地点と決定した。これ以上の前進は死を意味し、みずから故国に報告するという使命をはたせないと判断したからである。

一行は三メートルほどの竹竿を立て、日章旗を結びつけた。そして、探検隊員の名簿と後援者の芳名簿を入れた銅の箱、さらに「もはや一歩も前進するあたわず、ここは皇恩の広徳を感謝し奉り、はるかわが隊の行動を奉告し奉る」と刻んだ銅柱を雪中に埋め、露営地を中心とした大雪原を「大和雪原」と命名したのである。

政府の資金援助なく大隈重信らが後押し

南極探検を実行するにあたって、白瀬の最大の悩みは資金のことだった。政府の援助を絶たれ、窮地にあった白瀬を励ますため、「南極探検発表演説会」が神田・錦輝館で開かれたのは明治四三年七月五日。成功雑誌社社長の村上俊蔵の呼びかけで、大隈重信伯爵、寺内正毅陸軍大臣らが駆けつけ、後援会が発足すると、朝日新聞社が五〇〇〇円を寄付するなど、ようやく探検経費四万円の計上が可能となったのである。

明治四三年一一月二八日、白瀬中尉以下二七人、南極探検隊の壮行会が盛大に開催された。会場は東京・芝浦の埋め立て地。その西側には、杉の葉で飾られた

▲「開南丸」から見た氷堤。氷堤の大きさは高さ100メートル、幅800メートル。

高床の式場が設けられ、後援会長の大隈伯爵をはじめ、帝国大学生、早稲田・慶応両大生ら約三万人もの人々が詰めかけた。午後一時三〇分に始まった壮行会は、大隈の「天皇陛下万歳」の発声で参加者が三唱して終了し、いよいよ隊員たちの乗船が開始された。

南極をめざす「開南丸」は三本マスト、長さ三〇・五メートル、幅七・九メートルで二〇四トン。白く塗られた船体の中間には二本の朱線が引かれ、中央のマストには南極旗、後方のマストには旭日旗が掲げられていた。

航海は苦難の連続であった。とりわけ飲み水は制限され、雨水を利用しながら、赤道を越えたのは一二月二九日、東京湾を出帆して一ヵ月がたっていた。

そして「開南丸」は、ニュージーランドのウェリントン港に物資補給のため三日間停泊。明治四四年二月一一日、いよいよ南極へと突進することになった。

南極圏で待ち受けていたのは、巨大な氷山の群である。南緯七四度一六分まで進むと「開南丸」は氷山に取り囲まれ、この先、前進することが不可能となった。幸い、氷山群から抜け出す風が吹き、窮地を脱したが、これ以上進むことは困難であった。老練な野村直吉船長もなんらなす術もなく、いったん引揚げ再度の挑戦をはかることが得策であることを告げると、白瀬は同意し、船はシドニーに引き返すことになった。

シドニーに六ヵ月間滞在した後、再度、南極をめざしたのは明治四四年一一月一九日のこと。そして翌四五年一月二八日、南極大陸のサビーン山を発見、鯨湾から氷原に登頂、南緯八〇度五分の地に足を踏み入れることに成功したのである

「航海で一番つらかったのは、貴重な生水をどうしてもちこたえるかだった、と言ったことが強く印象に残っています また、資金面での苦労は相当なものだったらしく、大蔵省や文部省をたらいまわしにされ、『まるで、自分は毛虫のようなものかと思った』とも言っていました」

昭和一九年八月、生まれ故郷の秋田県由利郡金浦町に疎開した白瀬は、弟の孫にあたる実家・浄蓮寺の現住職・白瀬知和氏（現・六七歳）にこう語ったという。

白瀬の晩年は、探検借財の重圧がのしかかっていた。帰国後、その栄光をたたえる講演会が各地で開かれたが、お金が集まらず、白瀬は隊員の手当金約四万円を自分で負担する羽目となった。彼は昭和二一年九月四日、愛知県挙母村の間借り先で貧窮のうちに八五歳の生涯を閉じたが、その日記には「生活に困りけり」と記されてあったという。〝探検王〟の悲しい末路であった。

▲白瀬は、「開南丸」の帰着（明治45年6月18日、千葉県館山着）より一足早く、5月16日、「日光丸」で横浜に帰着、夫人と子息の出迎えを受けた。「写真タイムス」

◀南極探検隊が乗りこんだ木造帆船「開南丸」。一八馬力の蒸気補助力機関を装備していた。毎日新聞社

女たちの肖像

師・天一の後を継ぎ独立！「女魔術師」松旭斎天勝〝妖術〟視線の技で大人気

稲葉真弓

日本で初めて舞台に電気仕掛けの噴水を持ちこむなど、大がかりな仕掛けで奇術を大衆娯楽の王座に引き上げたのは松旭斎天一だが、弟子の天勝（二五＝本名・かつ）が天一死後、独立して華々しくデビューしたのがこの年のこと。浅草・帝国座での独立興行は連日大入りで、〝女魔術師・松旭斎天勝〟の黄金時代の幕開きとなった。

彼女の魅力は、みずから考え出した〝視線の技巧〟にあった。妖艶、美貌の彼女が、舞台上から媚を含んだ視線を投げる。すると、その視線を受けた客は魂を抜かれたようになり、連日見物に来ないではいられなくなったという。これぞ、まさに妖術である。

天勝は明治一九年五月、東京・神田で質屋の長女として生まれた。父親が競馬や相場に熱中し破産、一一歳で芸者屋に身売りする。二日で逃げ帰り、そのあと小間使として天一のところに奉公に出されたのが奇術の世界に入るきっかけだった。美貌とものの覚えのよさから、彼女はたちまち天一のお気に入りとなり、「天下に勝ち、名乗りをあげるように」と天勝という芸名を与えられた。二人の関係は師匠と弟子の間柄を超え、十五、六歳の頃、愛人関係になっている。このため天一の妻や座員の嫉妬をかい、あからさまないやがらせも受けた。

明治三四年、天一一座に加わりアメリカを巡業、振り袖姿が人気を呼び、加えて、数を数える時、シックスを「セックス」と言うので観客が大喜び、たちまち人気者になった。歯にダイヤモンドを埋めこんだという逸話が生まれたのも、この頃のことである。

天勝には、天一をはじめ伊藤博文、新聞記者・田中万逸（後に代議士）、警視庁の官房主事・大島直道、逓信大臣・後藤新平らとのロマンスがあるが、大正四年、一座の支配人だった野呂辰之助と結婚。「サロメ」を彼女のために企画、大成功させたのも名プロデューサーの野呂だった。その野呂は昭和二年、梅毒で脳を冒され死亡。一時は経済的に逼迫したが、四年、不況にあえぐ失業者の間で、天勝の舞台は再び大人気を呼んだ。

絶えず興行界のトップに立ってきた天勝が引退を決意したのは昭和九年。一二年まで引退興行を行い、この後、学者の金沢一郎と結婚した。晩年の彼女はいっさい舞台から身を引き家庭人となったが、昭和一九年、食道癌で死亡、五八歳だった。

▲スピーディーな新奇術で人気に。

勝者・敗者

「NIPPON」の初体験！ストックホルム五輪大会で三島弥彦と金栗四三が苦戦

阿部珠樹

この年の五月一六日、東京・新橋の駅頭は、時ならぬ人波でごった返していた。南極探検を終えた白瀬矗一行の帰国を迎える人々と、ストックホルムで開かれる第五回オリンピックに参加する日本選手団を見送る人々が、新橋駅に詰めかけたのだ。

安心した顔が並ぶ帰国組に対し、オリンピック選手団の顔には緊張がみなぎっていた。なにしろ日本が初めて参加するオリンピックである。国家意識がきわめて強かった時代、負けたら自殺でもしかねないような表情で、見送りの歓声にこたえていた。

一行はシベリア鉄道を経由し、六月二日ストックホルムに入る。長旅、慣れぬ食事、まわりを見ればとても勝てそうにない外国選手たち。選手も役員も大会が始まる前にすでに落ちこんでいた。それでも、東洋の新興国は胸を張って七月六日の開会式に参加する。なお、プラカードの国名に「JAPAN」ではなく「NIPPON」を使ったのは後にも先にもこの時だけだった。

この時参加した日本選手は二人。陸上短距離の三島弥彦（二七）とマラソンの金栗四三（二〇）である。先に登場した三島は、一〇〇、二〇〇メートルともなすところなく予選落ちしてしまった。四〇〇メートル予選では、出場者二人のため二着に入賞したが、準決勝は疲労のため棄権する。期待は前の年、国内でオリンピック記録を更新していた金栗にかかる。予選落ちでふさぎこむ三島、監督の大森兵蔵は結核が悪化して寝こむありさま。金栗の重圧は日に日に強まった。

マラソン当日の七月一四日は、記録的な暑さだった。加えて慣れぬアスファルト道路。それでも金栗は速いペースに必死に食らいついていく。しかし、忍耐も三〇キロ付近までだった。金栗は腹痛のため意識を失い、民家の庭先の木陰に倒れこんだ。このレースはオリンピック史上初めて死者が出たように、過酷さで歴史に残るレースとなった。経験の少ない金栗はよく健闘したと言える。いずれにしても最初とはいえ、日本スポーツ界にとってはあまりに苦いオリンピック体験だった。

▲日本選手の入場。旗手は三島弥彦。左端は嘉納治五郎。

1月

呉市企画部海事博物館推進室提供

毎日新聞社

▲**川島浪速、「満蒙」独立を画策（1月29日）**参謀本部とはかり、清朝の皇族・粛親王、内蒙古のカラチン王を扇動。列強の反対で参謀本部が脱落し、頓挫。

▼**日本初のスキー競技会開く（1月21日）**新潟県高田市で、1本杖スキーを日本に伝えたレルヒ少佐が指導。陸軍兵らが、南葉山で5キロレースを行った。

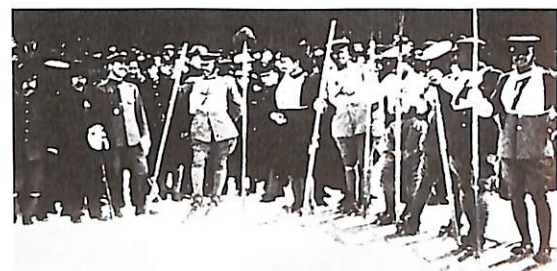
▼**難波新地の大火に蒸気式消防ポンプ出動（1月16日）**烈風にあおられて火の海と化した大阪・ミナミに、この頃普及し始めた「消防馬車」が出動したが、10時間も燃え続け、約5000戸が焼失した。

▲**戦艦「河内」まもなく完成（1月）**国産初の弩級戦艦。この頃、日本の造艦技術は急速に進歩しており、「河内」は外国に範をとった最後の軍艦となった。以後、日本は独自のデザインを確立する。

▼**仏首相にポアンカレ（1月13日）**モロッコをめぐり仏独が争う中で、前政権の対独「軟弱外交」を不満とする世論を背景に就任。写真は、エリゼ宮を出る新閣僚。中央がポアンカレ。3月に、モロッコの保護国化に成功した。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

毎日新聞社

▶**中華民国成立（1月1日）**前年10月、武昌に始まった辛亥革命が、ついに結実した。ヨーロッパで資金集めに奔走していた孫文が南京に入り、この日、臨時大総統に就任して建国宣言。写真は、南京の国民政府政庁。

明治45年1月

1（月）●安田財閥の中枢となる持株会社「保善社」設立。●南京に臨時政府が成立。孫文が臨時大総統に就任し、中華民国建国を宣言。
2（火）●夏目漱石、「朝日新聞」に「彼岸過迄」連載開始。
3（水）●山口県宇部の炭鉱で坑内火災、一一人死亡。
4（木）●朝鮮総督府、教育勅語下付につき、官立・道立諸学校に訓令。
5（金）●日・英・米・独・仏五ヵ国、北京―奉天間鉄道保護のため、沿線への軍隊派遣を決定。
6（土）●独のウェゲナー、大陸移動説を発表。
7（日）●日露戦争後、貿易の伸びが停滞、と新聞に。
8（月）●中国の辛亥革命を支援してきた犬養毅と頭山満が、南京で孫文と会見。
9（火）●米国、資産保護を理由にホンジュラスに派兵。
10（水）●大倉組の対中国鉄道借款三〇〇万円供与を確定（英米の抗議で利権獲得に失敗）。
11（木）●孫文、北伐宣言。清朝との対決姿勢打ち出す。
12（金）●大阪市電、運賃均一制を実施（四銭）。
13（土）●東京組合石炭廻漕船の船頭一五〇〇人がスト。
14（日）●大阪歯科医学校設立（現・大阪歯科大）。
15（月）●東京市電ストを指導した片山潜ら、治安警察法違反で逮捕。
16（火）●大阪難波新地から出火、周辺五〇〇〇戸焼失。
17（水）●英のスコット隊五人、南極点に到達（帰途、吹雪の中で遭難し全員死亡）。
18（木）●ロシア社会民主労働党がプラハで協議会開催。レーニン主導のボルシェビキ中央委員会設立。
19（金）●米軍、天津―北京間鉄道保護のため中国上陸。
20（土）●日本メソジスト教会、東京・数寄屋橋に大教会堂を建設。
21（日）●新潟県高田で日本初のスキー競技会開催。
22（月）●孫文、北京の袁世凱に、南北妥協条件を送付。
23（火）●オランダのハーグで国際阿片条約調印式。
24（水）●群馬県岩鼻村の陸軍造兵廠火薬製造工場で爆発事故、五〇棟が全半壊し、六人死亡。
25（木）●結核予防めざす社団法人「白十字会」創立。
26（金）●台湾に私設軌道規定発布。
27（土）●茨城県古河地方の内職は、足袋縫い・坐繰り製糸などで、熟練者は一日三〇銭、と新聞に。
28（日）●白瀬矗ら南極探検隊、南緯八〇度五分に到達
29（月）●「大陸浪人」川島浪速、内蒙古のカラチン王と蒙古独立に関し契約。
30（火）●茨城県鹿島郡沖で漁船転覆、二人死亡。
31（水）●鉄道院、中野―昌平橋間に婦人専用車を運転。

ニュース・ファイル
1912
フォト＋日録で再現する366日

ウェゲナーが大陸移動説を発表したこの年、日本では初めて特急列車が運転された。中華民国の成立と清朝滅亡、ヨーロッパでは列強が海軍拡張にしのぎをけずり、バルカンでは次第に緊張が高まっていった。そんな中、七月、天皇崩御、明治が終わった。

◀**上原勇作陸相、帷幄上奏（12月2日）**第2次西園寺内閣の一員でありながら、陸軍2個師団増設を強硬に要求。緊縮財政主義をとる首相と対立し、ついに青山離宮に参内、天皇に直接辞表を提出して政府を瓦解させた。

「写真タイムス」

▲浅草国技館開館（2月5日）アラビア風ドームときらびやかな外観が人目を引いた。明治42年完成の両国国技館と同じ、辰野金吾の設計。総建坪1600坪。

▲同志社大学発足（2月）明治8年京都に開校の同志社英学校が、神学校などを統合し、昇格。創立者・新島襄の「キリスト教主義教育の大学を」との遺志をかなえた。

▲ユングフラウ・トンネル貫通（2月21日）アルプスの山腹をうがつこと3457メートル、1896年来の難工事を達成。欧州で最も高所を走る、登山鉄道が作られた。

▼北京動乱（2月29日）"首都南遷"などに反対する兵士が暴動、翌月2日まで市内は騒然。写真は、臨時救護所の本願寺をたよった隆裕皇太后の父、桂太郎ら。

「太陽」

毎日新聞社

▲8850形ＳＬ登場（2月13日）8800形とともにドイツから輸入。ボイラーで発生した蒸気を、さらに加熱してシリンダーに送る「過熱式」。従来形より牽引力が強力になった。

▶ニコライ大主教葬儀（2月20日）東京・駿河台にみずから創設したロシア正教会ニコライ堂で荘厳な式典。多数の信徒に送られ、谷中墓地に埋葬された。16日死去、75歳。布教と日露友好につとめた生涯だった。

「写真タイムス」

明治45年2月

1（木）●大阪府、火災防止のため、割れやすいガラス壺式石油ランプの使用を禁止。
2（金）●清朝の皇族・粛親王、川島浪速らの手で北京を脱出、旅順に保護（第一次満蒙独立運動）。
3（土）●栃木県、住民のトラホーム検診を開始。
4（日）●茨城県で銀行員が一万三〇〇〇円を持ち逃げ。
5（月）●東京の浅草国技館、開館式。
6（火）●米国、日本など列国に、利益擁護のための中国での共同行動を提案（18日、日本同意）。
7（水）●京都の大覚寺、妙心寺、滋賀県の延暦寺など、一四の寺社を特別保護建造物に追加。
8（木）●米紙、新しいダンス・ステップ「ラグタイム」を野卑と非難。保守層はこの記事に喝采。
9（金）●今年の雛人形は、木目を生かしたもの、衣装の色をくすませたものが新趣向、と新聞に。
10（土）●宮崎県、軽便鉄道法による蒸気鉄道免許取得。
11（日）●学習院女学部本館が焼失。
12（月）●清朝の宣統帝（溥儀）が退位し、清朝滅亡。
13（火）●孫文、臨時大総統辞任を表明（15日、中華民国、袁世凱を臨時大総統に選出）。
14（水）●俗謡「チョイトネ節」流行、と新聞に。
15（木）●日本初の冷凍漁船「第一旭丸」竣工。
16（金）●英、満州（中国東北部）における日本の「独自行動」に警告。
17（土）●茨城県北部沿岸担当の水産支部長、県外の打瀬網漁船による根こそぎ漁獲制裁を県に陳情。
18（日）●愛知電気鉄道の熱田伝馬町―大野町間開業。
19（月）●東京で、陸軍靴工場から二〇〇〇足分の皮革を盗んでいた靴製造業者が逮捕される。
20（火）●京都・大谷大学で、教師罷免を要求した学生二〇〇人を無期停学処分。学生は退校を宣言。
21（水）●与謝野晶子、『新訳源氏物語』刊行（第一巻）。
22（木）●未成年者飲酒取締法制定。
23（金）●住友銀行、個人経営から株式会社に改組。
24（土）●政府、衆議院議員選挙法改正案を提出。定数三四人増、完全小選挙区制採用など。
25（日）●原敬内相、神道・仏教・キリスト教の代表と懇親会、宗教による国運伸張めざす（三教会同）。
26（月）●ロシア、中国新政府承認問題に関し、日露両国の特殊権益確保を提案（日本、不同意）。
27（火）●仏で労働者の定年を六〇歳に延長する法改正。
28（水）●欧米列強、中国に二〇〇万両の借款を供与。
29（木）●鉄道院、東京―札幌間を六時間短縮し、三七時間で結ぶ計画を検討中、と新聞に。

▲美濃部達吉、『憲法講話』刊行（3月1日）天皇機関説を含み、君権絶対主義の憲法学者・上杉慎吉との激しい論争を呼び起こした。美濃部は38歳。所論は昭和初年まで広く支持された。

PPS

▲仏、モロッコを保護国化（3月30日）アラウィー朝がフェス条約に調印、スルタン・ハフィド（写真）の名目上の地位保持と引き換えに、実権を譲った。

▲袁世凱、中華民国臨時大総統に就任（3月10日）英・米の支持と北洋軍閥の武力を背景に、清帝を退位させ、孫文の南京政府をも妥協させた。53歳。写真は就任式後、北京の迎賓館で外国使節と。袁は以後、次第に独裁体制を強めた。

▼東京・深川の洲崎遊廓で大火（3月21日）白昼、貸座敷業者宅から出火、強い南風のため平井町まで燃え広がり、午睡中の娼妓たちを大混乱におとしいれた。火は午後4時やっと鎮まったが、1150戸が焼失。写真は、大門口で活躍する蒸気式消防ポンプ。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲貞奴、大阪から上京（3月27日）前年11月に47歳で永眠した、夫・川上音二郎の納髪式に参列のため。写真は、新橋駅から高輪・泉岳寺に向かう貞奴。式は、新派劇の代表者だった故人の関係者、人気俳優めあての野次馬で大混雑となった。

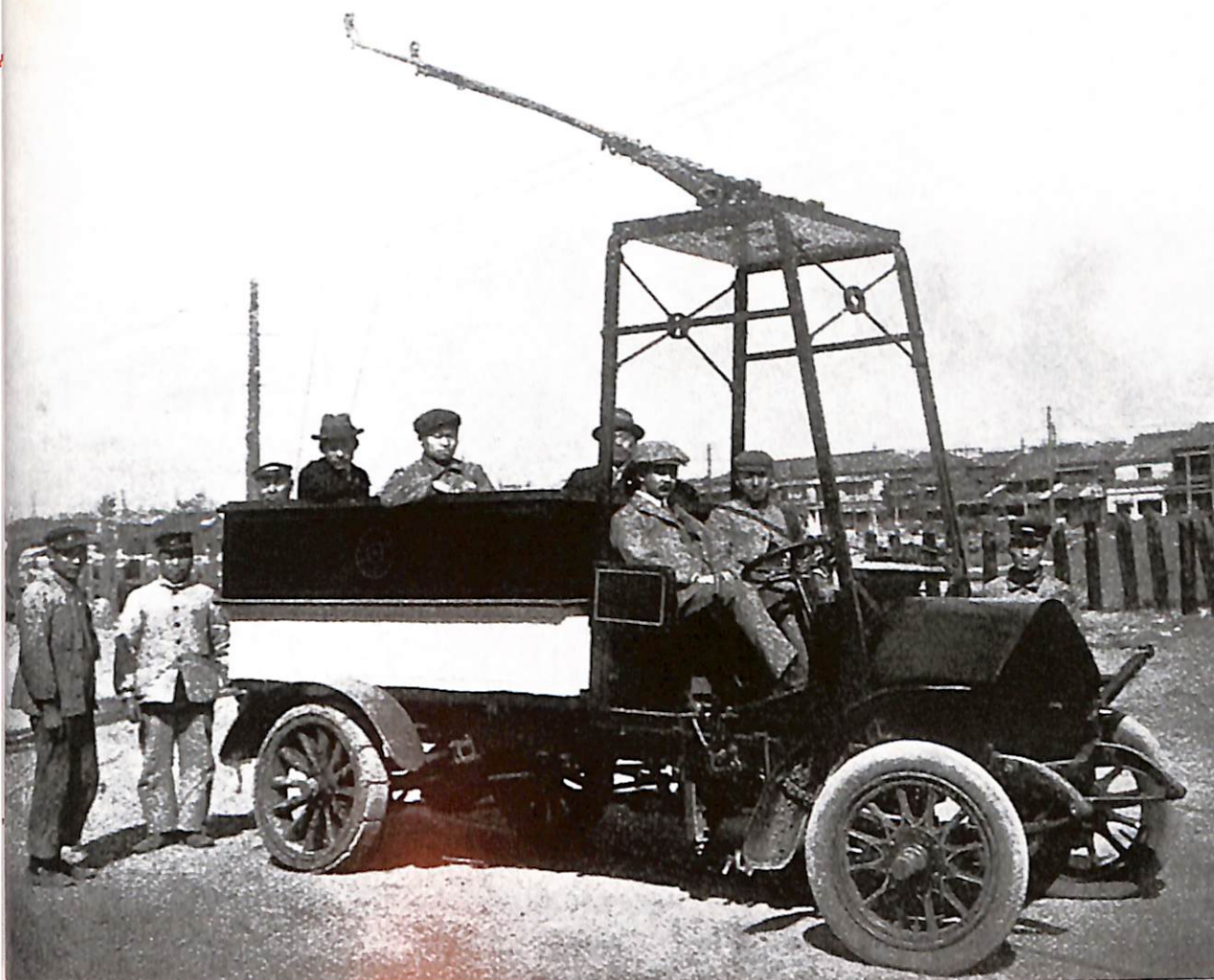
▲ＪＴＢ設立（3月12日）日本交通公社の前身。鉄道院、満鉄などが発起、外国人旅客の増加に対応した。写真は、鉄道院内に建てられた事務所。

明治45年3月

1（金）●山陰線・京都―出雲今市間が全通（5月開業）。●米のベリー大尉、飛行機から初の落下傘降下。
2（土）●小山内薫ら、東京・有楽座で「第一回文芸活動写真会」開催、輸入文芸映画を上映。
3（日）●東京・新橋の人気芸者・政代が服毒自殺。有名俳優との失恋と借金が原因。
4（月）●日本赤十字社の清国革命戦傷者救護団三四人が、任務を終え四ヵ月ぶりに帰国。
5（火）●英婦人参政権運動家・パンクハースト女史、蔵相邸爆破扇動容疑で逮捕。
6（水）●東京・浅草の劇場内で、観劇中の男が友人を刺殺。原因は女性問題。
7（木）●本年度予算案成立、総額五億七〇〇〇万円。うち軍事費が三三％。
8（金）●ドイツ、第三次艦隊建造計画を発表。
9（土）●東北帝大に、医学と工学の専門部を設置。
10（日）●袁世凱、北京で中華民国臨時大総統に就任。
11（月）●新潟県の弥彦神社で火災。本殿など大半焼失。
12（火）●「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」創立。
13（水）●ブルガリア、ロシアの支持でセルビアと同盟条約（バルカン同盟への動きが活発に）。
14（木）●東京女医学校、専門学校に昇格。
15（金）●大阪の友禅職人三〇〇〇人、賃上げ要求スト。
16（土）●神戸川崎造船所で、新型戦艦「榛名」起工（翌日、三菱長崎造船所で同型艦「霧島」起工）。
17（日）●暖冬一転寒波、大雪のため各地で電信線切断。
18（月）●東京・上野公園で小松宮の銅像除幕式。
19（火）●文部省、文芸上の功労で坪内逍遥を表彰。
20（水）●島根県美濃郡で猿三〇〇匹が熊一頭と格闘、村民の発砲で退散し、後に猿一〇〇匹の死骸。
21（木）●東京・洲崎遊廓で大火、一一五〇戸焼失。
22（金）●ヤンマーディーゼルの創業者・山岡孫吉、ガス吸入式エンジンの製作・販売を開始。
23（土）●東京師範学校が全焼、寄宿生一人が焼死。
24（日）●モナコで国際水上機大会開催、独機が優勝。
25（月）●東京・板橋の陸軍火薬庫で爆発、二人死亡。
26（火）●目黒競馬場の川崎競馬場への合併が決まる。
27（水）●鉄道院、アメリカから六六両輸入した過熱式蒸気機関車「八九〇〇形」を使用開始。
28（木）●在朝鮮日本人子弟のための公立教育機関設置。
29（金）●呉海軍工廠で、共済会に関する幹部への不満からスト、三万人が参加し、工廠は大混乱。
30（土）●沖縄県に衆議院議員選挙法を施行。
31（日）●日本初の弩級戦艦「河内」が完成。

▲マニラ陸軍野球チームが来日(4月)早大が2月にマニラで招待試合をしたお返し。慶大は4勝3敗、明大は1勝、早大は1勝1敗だった。写真は、東京・神宮球場で始球式を行う尾崎行雄東京市長。

「写真タイムス」

▲輜重兵部隊が存在アピール(4月8日)「輜重輸卒が軍人ならば、チョウチョ・トンボも鳥のうち」などと、軽視されがちな輜重部隊が東京で大イベント。迫真の訓練で、軍事輸送の重要性を訴えた。

「写真タイムス」

▲東京市電気局、無軌条電車試運転(4月11日)浜松町工場で製作、数寄屋橋車庫まで運転した。後にトロリーバスと呼ばれたもので、本格的営業走行は昭和7年、京都の四条大宮―西大路四条間1.6キロだった。

「写真タイムス」

▶池上本門寺の再建(4月2日)明治34年に全焼した客殿、庫裏などが竣工、開堂式大供養が盛大に行われた。本門寺は、13世紀を起源とする日蓮宗大本山。江戸中期には、徳川吉宗の正室・側室の廟所に指定された。

▲初の帝国学士院賞に高峰譲吉(5月12日)タカジアスターゼ、アドレナリンの発見で、酵素化学・ホルモン化学の端緒をひらいた業績により受賞。57歳。

「写真タイムス」

◀万世橋駅開業(4月1日)赤煉瓦と花崗岩の外観は、甲武鉄道(後の中央線)の東京の基点としてふさわしい威容。東京駅と同じ辰野金吾設計。新しいもの見たさの見物人で、式典は大にぎわいだった。

明治45年4月

1(月)●紡績業界、操業短縮を継続(第六次操短。4日、職工の動揺にそなえ憲兵隊が出動)。
●名古屋市、屎尿処理事業を開始。
●吉本吉兵衛・せい、大阪で寄席経営を開始。

2(火)●米国、中華民国承認を列国に要請。

3(水)●成蹊実務学校開校(成蹊学園の始まり)。

4(木)●呉工廠争議鎮静へ。すでに一〇〇〇人逮捕。

5(金)●中華民国臨時政府が南京から北京に移る。

6(土)●蒙古で中国からの独立運動、と新聞に。

7(日)●北海道・石狩での石油生産が好調、と新聞に。

8(月)●東京の輜重兵第一大隊、存在アピールのため「車両祭」を実施。

9(火)●イギリスの「タイムズ」、日本の屋外広告規制を、風致維持に効果的と賞賛。

10(水)●東海道線彦根駅で火災、貨車・客車一七両焼失。

11(木)●東京市、トロリーバス実験車を試作、試運転。

12(金)●北海道・函館で大火。七〇〇戸焼失。

13(土)●石川啄木、没(二六歳)。

14(日)●「タイタニック号」が氷山に衝突(翌日沈没)。

15(月)●東京・京橋に、電通の新社屋が完成。

16(火)●伊海軍、ダーダネルス海峡を砲撃、トルコは海峡封鎖で応酬。露が強硬抗議。
●英のキンビー、女性初の英仏海峡横断飛行。

17(水)●シベリアのレナ金鉱でスト中の労働者二〇〇人以上が射殺され、全国にスト拡大。

18(木)●九州水力電気、町田第一発電所など起工。

19(金)●名古屋を中心に暴風。貨車一五両が転覆。

20(土)●大阪市に「営農婦人会」設立、婦人の農事思想促進めざす。

21(日)●長野県・諏訪神社で全国一二〇〇の農園家大会、臨時列車も出て観衆五万人。

22(月)●ラッコ・オットセイ捕獲禁止法公布。
●松本市で大火。一五〇〇戸焼失し、市内の三分の一を失う。

23(火)●日本郵船の船員が横浜港でスト、以後他社にも拡大し、賃金一割増獲得。初の船員スト。

24(水)●小川未明「魯鈍な猫」、「読売新聞」に連載開始。

25(木)●乃木大将、英の「バス勲章」を受ける。

26(金)●永井荷風が新橋の芸者と恋仲、と新聞に。

27(土)●マニラの陸軍選抜野球チームが、来日第一戦。

28(日)●海軍水路部、全国の地磁気測定を開始。

29(月)●北海道・夕張炭坑でガス爆発、二七六人死亡。

30(火)●華族の戸数調査、公爵一七戸、侯爵三七戸、伯爵一〇二戸、子爵・男爵計七六四戸。

証言・あの日この日

津田左右吉(38)

5月10日(金) 〈けさも桜田門で巡査に怒鳴られた、道を歩くのにさへ一々巡査におどされるを要する日本は何といふ厄介な国であらう、日本の役人は今民を教へるつもりでゐる、そのくせ彼らの智識は民よりも数百歩の後にある〉(津田左右吉「鼠日記」)

この頃、日本は大逆事件や韓国併合などを経て、着々と天皇制国家・日本を確立しつつあった。その一環として、国定教科書を改訂し、「忠孝」イデオロギーを軸にした国民への思想統制・文教政策を強力に推し進めようとしていた。若き日の歴史学者・津田左右吉はそういう窮屈な思想統制・文教政策に対して激しく反発し、日記に権力批判の言葉を繰り返す。この日も、津田は、意味もなく巡査に怒鳴られたことに腹をたて、日本の役人たちのレベルの低さに怒りを爆発させる。 (山崎行太郎)

▲松井須磨子の「マグダ」上演禁止(5月17日)ズーデルマンの戯曲に主演。日本一の演技と評判だったが、公演終了後、内務省が禁止命令。自由に生きる女主人公の生活を忠孝の精神に反するとし、脚本の改訂を強いた。

毎日新聞社

▲奈良原式飛行機、ついに成功(4月)国産機開発の先駆者・奈良原三次が製作した「奈良原式4号鳳号」が、安定した飛行を実現した。5月11日には天覧にも供され、7分間、10キロを飛行。以後、全国各地で公開飛行を重ね、飛行の実際を多くの国民に知らせた。

「写真タイムス」

▲金栗四三、五輪へ向け試走(4月1日)東京高等師範学校の長距離競走に出場。ストックホルム五輪マラソン出場に向け、快調な走りを見せ、笑いながら余裕のゴール。しかし7月の本番では、硬い路面と炎暑に悩まされて途中で倒れ、期待にこたえられなかった。

▲九大フィルハーモニー誕生(5月)日本初のアマチュア管弦楽団。写真は大正13年撮影で、ベートーベン「第9交響曲」日本初演の日だった。

▶山陰線、京都―出雲今市間開業(5月)前年12月に最大の難工事だった余部鉄橋が完成。これで山陰と京阪神が接続した。写真は、開通直後の余部鉄橋。

明治45年5月

1(水)●鉄道院が乗客宛の電報など取り扱い開始。

2(木)●樺太(サハリン)の豊原に、樺太中学校開校。

3(金)●文芸協会、ズーデルマン作・松井須磨子主演の「マグダ」初演。

4(土)●伊、トルコ領のロードス島などを占領し、東地中海に拠点確立。英仏に不安広がる。

5(日)●ボルシェビキの機関誌「プラウダ」創刊。

6(月)●長野県・善光寺で、曲馬団・映画館の観客争奪がエスカレート、暴力ざたとなり二人負傷。

7(火)●東京で武蔵野鉄道開業(現・西武鉄道の母体)。

8(水)●パリ・オデオン座で、日本の武士道への興味から忠臣蔵の翻案劇が好評、と新聞に。

9(木)●京都で浄土宗尼衆学校設立。

10(金)●日本初の会計士事務所「森田会計調査所」、大阪で開業。

11(土)●逸見次郎、竹製計算尺の特許取得。

12(日)●帝国学士院、アドレナリン発見の高峰譲吉らに、第一回帝国学士院賞を授与。

13(月)●理博・久原躬弦、京都帝大総長に就任。

14(火)●露とノルウェー、スピッツベルゲン諸島の中立を宣言。

15(水)●第一一回総選挙、政友会が圧勝。

16(木)●台湾造林用育苗に関する規則、公布施行。

17(金)●皇太子、早大に行啓。私立学校への初の行啓。

18(土)●米大リーグで初の選手スト。ヤジを飛ばした観客を殴ったタイ・カップの処分が原因。

19(日)●同志社、本年より大学組織となり開校式。

20(月)●横須賀海兵団、訪日中の英東洋艦隊乗組員五〇〇人を鎌倉・江ノ島観光に接待。

21(火)●明大学友会、同校卒の群馬県知事・依田銈次郎(初の私大出身知事)の祝賀会開催。

22(水)●前年末の全国の電灯数は約二八〇万個、一年間で一二〇万個増、と逓信省調査。

23(木)●米国、権益保護を理由にキューバに軍隊派遣。

24(金)●陸軍、移動式の野戦探照灯を電信隊に導入。

25(土)●学生の道徳教育をめざす「明倫講話会」が、東京の富士見町教会で初の講演会。

26(日)●参謀本部編『日露戦史』(全一〇巻)、刊行開始。

27(月)●農商務省、第一回臨時産牛調査委員会を開催。

28(火)●内務省、メチルアルコール取締規則を公布。

29(水)●ギリシャとブルガリア、対トルコ同盟締結。

30(木)●台湾に、切手・収入印紙売り捌き規則制定。

31(金)●近年、果実ではサクランボに人気、都会では味より外観のよい品種が好まれる、と新聞に。

「現場」を歩く 横川

煤煙もアプト式も今は昔、碓氷峠越えは新幹線で！

山本徹美

▲碓氷峠越えに活躍した、ドイツ・アルゲマイネ社製作の10000形（ＥＣ40形）が、軽井沢駅近くに展示されている。日本で最初に走った電気機関車である。 但馬一憲

明治四五年五月一一日、碓氷峠を越える信越本線横川—軽井沢駅間に、わが国で初めて電気機関車が走行した。

横川—軽井沢間が開通したのは明治二六年。両駅間は一一・二キロだが、標高差は実に五五二メートル。その間にうがったトンネルが二六カ所。六六・七パーミル（一キロ進む間に六六・七メートルの高低差）部分が八キロもあった。この急勾配を克服すべく、アプト式歯車軌条を採用。

とはいえ、蒸気機関車による峠越えには無理があった。煤煙は、乗客を不快にさせただけでなく、乗務員の窒息・脳貧血事件をも招く。機関車の故障で逆走、激突事故も発生。その改善策が電気機関車導入だったが、製作技術がなかった鉄道院は、ドイツのアルゲマイネ社から一両三万四九〇〇円で一二両を購入した。

電気機関車は乗員乗客を煤煙から解放し、一時間一五分かかっていたのを四三分に短縮した。それでも、上り坂を逆走する事故や故障が発生。『機関車一〇〇年』（毎日新聞社）に、当時を知る朝倉希一氏（元・車両課長）の証言がある。

「輸入した機関車の故障が多かったため、修理と改造を何度もやっているうちに、日本の技術者たちは、先進国の技術を吸収し、それを十分にこなせるだけの実力を養っていった」

大正八年、国産電気機関車第一号が完成、やがてその技術は世界最高水準に。

鉄道の〝聖地〟作り

平成九年一〇月一日、長野行き新幹線が開通。E2系と呼ばれる新幹線「あさま」に乗ってみた。高崎駅から軽井沢駅までの所要時間は、わずか一七分。碓氷峠に相当するトンネル部分は三〇パーミル。そこを、新幹線は時速二〇〇キロで疾駆する。峠越えの実感など、ない。JR軽井沢駅の井上順一副駅長の話。

「当駅の乗降旅客数は従来と比較して二割増です。一方で、横川—軽井沢間はどうなったのか、と毎日のように問い合わせがあります。哀愁があるようです」

軽井沢駅北口をはさんで西側にはアプト式電気機関車が、横川寄りの東側には、〝峠のシェルパ〟として親しまれた国産電気機関車EF63形が展示してある。

新幹線開業で、横川—軽井沢間は廃線、バス路線に。そのバスで碓氷峠を越える。約四〇分で横川駅に到着。ここの風物詩でもあった弁当売りの姿は、ない。

「昭和三七年にドライブインを開店させたのを手はじめに、車社会に歩調を合わせ、移行してきました。廃線によるダメージは軽微です」（田中亮介「峠の釜めし本舗おぎのや」総務部長）

松井田町では「横川鉄道文化むら開設準備室」を設置。EF63形機関車の運転や、鉄道展示館などを建設する予定だ。碓氷峠があればこそ鉄道技術が進歩した。妙義山をのぞむ雰囲気といい、ここは鉄道の〝聖地〟にふさわしい、と私は思う。

▲急勾配、トンネルの多い碓氷峠を走るEC40形。電気機関車導入により、横川—軽井沢間が32分も短縮された。

ユニフォト・プレス

▲米共和党、大統領候補に現職のタフトを指名（6月22日）タフト（写真）と指名を争った前職のルーズベルトは革新党を結成、再び大統領選に挑んだ。しかし、最後に笑ったのは民主党のウィルソンだった。

石井行昌／京都府立総合資料館提供

▲京都・四条通に市電開通（6月11日）前年に道路拡幅、東大路通—大宮通間を広軌の市営電車が運行するため、四条大橋も付け替えられた。界隈は平安末期から、京都最大の繁華街。その後も京阪電車（後の阪急）が通じ、トロリーバスが走った。

▼万国看護婦大会出席のため渡独（6月28日）ケルンなどで8月4日から開かれる大会に出席するため、日本赤十字社・三井慈善病院の看護婦3人が新橋駅を出発。シベリア経由で7月にベルリン着、現地病院の視察も行った。

▶東京—横浜間に日本初の飛行便（6月1日）米人飛行家が操縦するカーチス水上機が、郵便1000通を積んで東京・芝浦海岸を出発、23分後に横浜の海岸に着水。帰路は離水できず、水上滑走のまま芝浦に帰った。

▼橘瑞超、仏蹟探検から帰国（6月15日）明治43年から単身ウルムチ、チベットなどをさぐり、ウイグル文字を解読。22歳の僧侶で、大谷光瑞の弟子だった。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲宮城正門の化粧直し（6月）二重橋濠に架かる石橋の先の正門が老朽化したため、全面黒漆の塗り替えを行った。この頃の宮城は、明治21年に落成したもの。

「写真タイムス」

明治45年6月

1（土）●米飛行家・アットウォーター、水上機で京浜間を飛び、見物客の絵はがきなど運んで人気。

2（日）●江戸時代に日本に帰化した明の儒者・朱舜水の記念碑が、東京の一高校庭に完成。

3（月）●東京・小石川の講道館で、オリンピックに参列する五輪日本委員・嘉納治五郎の送別会。

4（火）●第二回国際無線電信会議。日本からも代表が出席し、相互交信の義務など決める。

5（水）●金沢で、米の買い占め容疑で六二人拘引。

6（木）●東京・浅草署、私娼対象に梅毒検査。

7（金）●日蓮宗富士派が、日蓮正宗と改称。

8（土）●日本鋼管設立（社長・白石元治郎）。

9（日）●三月結成の洋画団体・光風会、第一回展開催。

10（月）●五月実施の総選挙の違反検挙者は、この日までに五一〇〇人と内務省警保局。

11（火）●京都市営電車、四路線で一斉に開業。

12（水）●アラスカのカトマイ山噴火、二年間大気混濁。

13（木）●秋田県能代近海で、体長七メートルの「人食い鮫」を捕獲、見物人多数が詰めかける。

14（金）●台湾で、米穀検査規則制定。

15（土）●新橋—下関間に、展望車つき特急の運転開始。

16（日）●横須賀で、三浦按針（ウィリアム・アダムズ）の記念碑除幕式。

17（月）●オーストリア＝ハンガリー、陸軍拡張法成立。

18（火）●六カ国借款団規約成立。日・米・英・仏・独・露が中国の全外債を引き受け、中国の利権独占。

19（水）●米国、政府職員に八時間労働制を採用。

20（木）●岡田三郎助・藤島武二、本郷洋画研修所設立。

21（金）●実業家・渋沢栄一ら、「帰一協会」設立。神道・仏教・キリスト教の合同めざす。

22（土）●米共和党、大統領候補に現職のタフトを指名。敗れたルーズベルトは新党結成へ。

23（日）●東京・目黒に青木昆陽の記念碑が完成。

24（月）●白瀬南極探検隊、早大で学術報告会開催。

25（火）●日本郵船、インド航路での英社のダンピングには、ダンピングで徹底対抗すると表明。

26（水）●米価暴騰下、富山県で貧窮者が米積み出しに反対して騒動。

27（木）●東洋の美術・骨董品に対する欧州の関心は、日本から中国に移った、と英美術商。

28（金）●堺利彦ら、ルソー生誕二〇〇年記念会開催。

29（土）●ストックホルムで第五回オリンピック開催。日本が初参加（7月6日、競技開始）。

30（日）●東京に、救世軍施療病院が落成。

ベストセラー

谷崎『刺青』、鏡花『歌行燈』文豪の名作が妍を競った！

谷崎潤一郎の初期作品集『刺青』が前年末に刊行され、この年評判を呼んだ。特に注目された表題作は、刺青師・清吉と美しい肌を持つ女との関係が、女の背に彫った"女郎蜘蛛"を軸に妖しく展開する官能的な小説だった。その冒頭部分で谷崎潤一郎は、時代の流れに抗して次のように書いた。

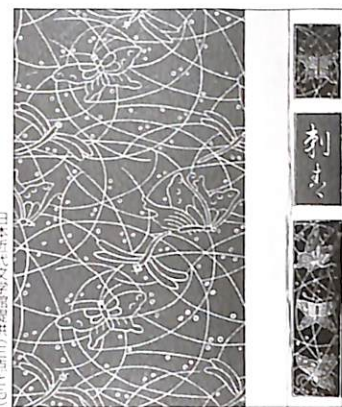
「其れはまだ人々が『愚』と云ふ貴い徳を持つて居て、世の中が今のやうに激しく軋み合はない時分であつた……すべて美しい者は強者であり、醜い者は弱者であつた。誰も彼も挙つて美しからむと努めた揚句は、天稟の体へ絵の具を注ぎ込む迄になつた。芳烈な、或は絢爛な、線と色とが其頃の人々の肌に躍つた」と。

この年一月、すでに反自然主義を掲げていた泉鏡花も、幻想的な雰囲気を色濃く漂わせた小説「歌行燈」を上梓した。謡曲の世界で将来を嘱望されていた男が、ふとしたことから門付け芸人に身を落とすが、その芸がやがて思いがけない出会いをもたらすというストーリー。文章もまた独特のリズムと流れで、読者を夢幻の世界に引きこんでいった。

一方で、現実を直視して表現した長塚節の『土』が五月に刊行された。その序文として夏目漱石は「『土』を読むものは、屹度自分も泥の中を引き摺られるやうな気がするだらう。余もさう云ふ感じがした。……斯様な生活をして居る人間が、我々と同時代に、しかも帝都を去る程遠からぬ田舎に住んで居るといふ悲惨な事実を」一度は見るべきではないかと主張した。

作品は「烈しい西風が目に見えぬ大きな塊をごうつと打ちつけては又ごうつと打ちつけて皆痩こけた落葉木の林を一日苛め通した」という一節から始まるが、作者が実在の人物をモデルにしただけに、現実生活の重苦しさがそのまま伝わってくるような小説だった。

▲『刺青』(籾山書店、1円)

日本近代文学館提供（三点とも）

▲『土』(春陽堂、1円10銭)
▶『歌行燈』(春陽堂、25銭)

スターと名場面

わが国初の公式記録映画「日本南極探検」が公開！

この年六月、浅草・国技館で映画「日本南極探検」が公開され、人気を呼んだ。前年から白瀬中尉の南極探検隊に合流し、その過酷な条件下で探検隊の行動を撮影し続けた田泉保直によるドキュメント映画だった。ちなみに、カメラマンの田泉は初めから同行していたのではなく、天候の関係でシドニーに停泊していた南極探検隊に、大隈重信からの要請で合流したもの。映画がいわば公式記録として扱われた、初めてのカメラマンとなった。

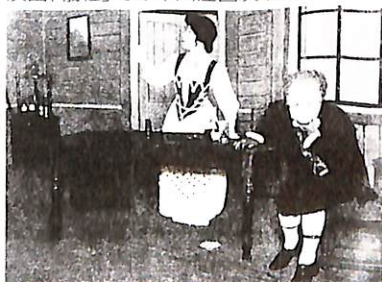
この頃の映画は、現在ほとんどそのフィルムが残っていないが、この年、泉鏡花の小説「通夜物語」が創業されたばかりの映画会社・福宝堂によって映画化され、三月一日、公開されている。泉鏡花の作品は、ディテールが書きこまれているせいか、映画化されることが少なくなかったが、鏡花自身は、作品に託したイメージと映像との違い、特に着物の着方などの違いに憤りさえおぼえて、この頃からまったく映画を見なくなったと、後に語っている。

舞台ではこの頃、二代目市川左団次の活躍が際立っていた。明治四二年に小山内薫とともに"自由劇場"を創立して以来、歌舞伎役者としての自分を大胆に変える新しい役に挑戦し続け、喝采をあびたのである。

▲カメラマンとして南極探検に向けて出発した、田泉保直の記念撮影写真(中列左から二人目)。

▶泉鏡花原作「通夜物語」の一場面。この年の本郷座1月狂言を、映画化。左から若水美登里、山崎長之輔。

田中純一郎提供

▼この年、本郷座で上演された小山内薫演出「犠牲」での市川左団次(右)。

早稲田大学演劇博物館提供

モノ語り'12

"お洒落感覚"が人気を呼ぶ！ 袴に「革製ブーツ」、ポケットに「ベス単」と缶入りタバコ「アイリス」

▶**新しい化粧品も続々と**　女性のお洒落も次第に本格化してきたが、中山太陽堂(現・クラブコスメチックス)から「マッセー・クリーム」という、今で言う、美顔用マッサージクリームが発売された。当時としては珍しい化粧品で、人気を呼んだ。

◀**国産ピアノが販売される時代に**　ピアノ製造はオルガンに比べて格段にむずかしく、日本楽器製造(現・ヤマハ)の創業者・山葉寅楠は明治32年に単身アメリカへ渡り、製造方法から工具まで研究しつつ、部品と機械を購入し、国産化をめざした。翌33年にアップライトピアノの生産を開始、35年にはグランドピアノを完成させることができた。そして明治40年代には、部品も国産化し、グランドピアノの自主生産を行うまでになった。価格は750～1300円と超高価格だった。

▼**女学生の大胆なファッション**　この頃、大塚製靴店(現・大塚製靴)から「革製ブーツ」が発売されたが、価格は6円50銭～9円と高価だった。本来は洋装時に履くものとして売り出されたが、お洒落な女学生の間で袴とあわせて履くことが流行し、大正年間のヒット商品となった。

クツのオーツカ資料館蔵／服部晶一郎

◀**セルロイドの人形が姿を現した**　この頃「セルロイド製の人形」が登場して、その新しい素材と色彩の鮮やかさが、新しい時代の到来を感じさせ、人々の注目をあびた。写真の人形には"メイド・イン・ジャパン"と記されており、輸出用に作られ、逆輸入されたもの。お尻のある部分を押すと"ママー"と声を出す、当時としては珍しい仕掛けもほどこされていた。

水島衣裳雑貨博物館蔵／山口隆司

まだ愛好者がいる名品"ベス単"

"ベス単"という愛称は、「ベストポケット・コダック」という商品名と、これが単玉(レンズが一組)であることからつけられた。元来は初級者向けカメラであるが、そのソフトフォーカスの写り方をよしとし、あえてこれを用いるカメラマンもいた。写真は、昭和4年の「芸術写真研究」(光大社刊)という雑誌に発表された向喜久雄の「黒部川風景」。"ベス単"で撮影したものである。

◀**タバコもすっかりお洒落になった**　"新製紙巻煙草"として専売局(現・日本たばこ産業)から売り出された「アイリス」は、扁平な缶入りという、これまでにない斬新なパッケージだった。これは携帯に便利なようにという配慮から生まれた形だったが、パッケージのデザインも、光琳風のあやめの花をあしらうモダンなものだった。20本入りで20銭。輸出用に箱入りと丸缶入りも作られていた。

たばこと塩の博物館蔵

◀**小型で軽量の人気カメラが登場**　この年、"ベス単"の愛称で知られる「ベストポケット・コダック」が、小西本店(現・コニカ)から発売され、ヒットした。蛇腹式で、折り畳むとベストのポケットに入るくらいの大きさになることから、この名がついた。"127"という裏紙つきのロールフィルムを使用、1本で8枚の撮影が可能だった。

日本カメラ博物館蔵　大畑俊男

人物クローズアップ

石川啄木（二六）

結核に襲われ続けた一家と〝早熟な天才〟の悲惨な死！

「呼吸すれば、／胸の中にて鳴る音あり。／凩よりもさびしきその音！」

歌集『悲しき玩具』の中の一首である。この歌が詠まれた日から約二ヵ月半後の明治四五年四月一三日、石川啄木は肺結核のため、二六歳の生涯を閉じた。

啄木とその家族の運命をひとことで言えば、「悲惨」という言葉が最も適切である。啄木の死の約一ヵ月前、母親のかつが喀血して亡くなった。四三年一〇月には長男の真一が、生まれて二〇日余りで短い命を終えている。また三九年には、長姉の田村さだが亡くなっており、さらに啄木の死から一年余りがたった大正二年五月五日、妻の節子が二八歳で死去する。死因はいずれも肺結核だった。

この一家に襲いかかった痼疾は、母方の祖父母から母にもたらされて石川家に入り、家族を次々と感染させていった。石川啄木という早熟の天才は、こうした運命の中で、その才能を振りまきながら駆け抜けていったのである。

石川啄木は、明治一九年二月二〇日（実際は一八年一〇月二七日と伝えられる）、岩手県南岩手郡日戸村（現・岩手県玉山村日戸）生まれ。本名は一。翌二〇年、一家は同県渋民村に転住する。

三一年、盛岡尋常中学校（現・盛岡第一高等学校）に入学。文学への関心は、金田一京助（言語学者）ら才気あふれる上級生たちによってもたらされた。金田一は、以降、啄木終生の友となり恩人となる。

雑誌「明星」を愛読し、与謝野晶子の『みだれ髪』によって短歌への目を開かれた啄木は、三五年一〇月、文学で身を立てようと中学を中退し、一一月に単身上京。与謝野鉄幹が主宰する新詩社の会合に出席し、鉄幹・晶子夫妻の知遇を得る。

しかし、啄木の身体はすでに結核菌がむしばみ始めており、さらに、貧困が啄木とその家族を苦しめる。

以降、啄木の生活の場は郷里の渋民から北海道の函館、小樽、釧路、そして東京へと移り変わるが、生活の苦しさに変わりはなく、その中で啄木の創作活動は続けられた。そんな啄木を援助したのが、金田一や函館の友人・宮崎大四郎たちだった。しかし、彼らの献身的な援助にもかかわらず、啄木の態度はけっして誠実なものではなく、遊蕩に走り、無返済のまま借金を重ねていくのである。

作家の関川夏央氏は、こうした啄木の性向を次のように述べる。

「当時、〝天才主義〟というのがありまして、天才をまわりが援助しながら盛り立てていこうというものですが、啄木は自分を天才と思っていましたし、まわりもそうすべきだと考えていました。啄木の借金にはそんな事情もあります。そして啄木は、自分では返すつもりでした」

母が重体におちいった時、啄木がつとめる朝日新聞社の有志が、見舞金を寄せてくれた。啄木はその金の一部で原稿用紙とクロポトキンの『ロシア文学の理想と現実』を買ったという。

啄木の短い人生は、困苦の中で輝く作品を生むためにあったのかもしれない。

▶啄木の死後二ヵ月の明治四五年六月二〇日、東雲堂書店から出版された第二歌集『悲しき玩具』。

◀明治四〇年、函館の代用教員時代。写真は文学グループ「苜蓿（もくしゅく）社」の同人と。前列左端が啄木。

▲明治37年、婚約時代の啄木と堀合節子。啄木はこの年、処女詩集刊行のため上京。翌38年「あこがれ」を刊行。その年6月、盛岡に帰り、節子を妻として新居をかまえる。

◀溥儀は2歳にして、清朝第12代の皇帝位についた。写真は建福宮庭園で。中央、岩に座っているのが溥儀。右から4人目が隆裕皇太后。

決定的瞬間

引き金は前年の辛亥革命！六歳の〝ラストエンペラー〟愛新覚羅溥儀が三年で退位

清朝第一二代皇帝・愛新覚羅溥儀は一九〇八年、二歳で皇帝となった。大ヒットした映画「ラストエンペラー」（ベルナルド・ベルトリッチ監督）では、死を目前にした西太后が幼い溥儀に「お前を、一万年王朝の新しい皇帝にします」と告げ、その言葉を聞いた溥儀は「お家に帰りたい」と宮殿内を駆けまわる、という実に印象的な皇帝誕生の瞬間を描いていた。しかしこの幼い皇帝は、一九一二年二月一二日、わずか六歳にして退位する。在位期間は約三年であった。

二歳から六歳と言えばまだ幼児であり、玉座に座って四億の民を統治することなど不可能である。皇帝となった彼は儀式に飽き、弟や妹、学友と遊べる「会親」の日を何よりも楽しみとした。その時ばかりは、謎々をしたり、鬼ごっこをしたり、京劇のまねをしたりして、存分に遊んでいたそうだ（『紫禁城の廃帝・溥儀』秦国経／東方書院）。

彼を摂政として補佐したのは、実の父親・醇親王（前皇帝・光緒帝の異母弟）であった。醇親王は権力を「満州」人貴族に集中させ、北洋軍の首領・袁世凱（五三）とも対立。また鉄道の利権を抵当に入れて外国から借款を導入しようと「鉄道国有令」を公布し、国民から厳しく批判されていた。

清朝の滅亡は、前年の一九一一年一〇月一〇日、湖北省東部の武昌で起きた革命（干支では辛亥にあたる年なので「辛亥革命」と言う）が決定打となった。この革命は、「鉄道国有令」に反対する人民を弾圧するために派遣された湖北新軍（清朝側）が、逆に清朝に反乱を起こして武昌を占拠したことから始まる。揚子江流域を中心とした各地域に同時多発的に武力蜂起が発生し、約一ヵ月でその勢力は清朝の支配地域の三分の二におよんだ。しかし各地域によって、その主張するところが異なり、混乱。事態を収拾するため、ヨーロッパにいた孫文（四五）が急遽帰国して、一九一二年一月一日に南京で中華民国臨時政府を成立させた。

一方、清朝はこの革命を鎮圧するため、袁世凱を総理大臣として迎え、北洋軍に討伐を依頼した。老練な政治家、袁世凱は状況をたくみに利用して自己の権力を強め、中華民国臨時政府とも交渉を重ねた。その内容は、清朝を倒して皇帝を廃位（ただし紫禁城に住むことを許し、優待条件を与える）させた場合、孫文は臨時大総統を退き、袁世凱に中華民国初代大総統を譲るというものであった。

この妥協は、誕生したばかりの中華民国はまだ弱体であり、「このまま内乱に突入すると、中国は外国の植民地と化してしまう」という孫文たちの危機感が背景にあった。また袁世凱も清朝に殉じるつもりはなく、共和制には賛成できないものの、早急に国家を統一する必要性を感じていた。

一九一二年一月から二月にかけての朝廷は、悲痛な空気に満ちあふれていた。貴族たちは「皇帝の退位はありえない」と主張。隆裕皇太后（光緒帝の皇后）は「先帝とともに死んでいれば、このようなみじめな目にあわずにすんだものを！」と泣き崩れた。これに対して袁世凱はさまざまな揺さぶりと恫喝を加え、ついに二月三日に皇帝退位の結論を得た。これを受けて、二月一二日、養心殿で隆裕皇太后と溥儀が玉座に座り、勅書を隆裕皇太后が涙ながらに読み上げて、二九六年間続いた清朝は滅亡した。それは同時に、秦の始皇帝以来二〇〇〇年以上におよぶ中国王朝の終焉であり、アジア初の共和国の誕生となったのである

▲退位直前の溥儀（右）と、隆裕皇太后。溥儀は退位後も皇帝の称号と年金を受け、紫禁城にとどまることを許された。

美の出会い

会場には夏目漱石の姿も！ 高村光太郎、岸田劉生らが第一回ヒュウザン会展開催

大正元年一〇月一五日から一一月三日まで、東京・京橋の読売新聞社三階で、第一回ヒュウザン会展が開かれた。斎藤與里（二七）、高村光太郎（二九）、岸田劉生（二一）、清宮彬（二五）、萬鉄五郎（二六）、木村荘八（一九）、バーナード・リーチ（二五）ら一〇代、二〇代の若い画家たち三三人が参加、二〇〇点余が出品された。

初日は作家の正宗白鳥（三三）や内田魯庵（四四）、志賀直哉（二九）、美術家の岡本一平（二六）、鹿子木孟郎（三七）、戸張孤雁（三〇）らが訪れ、大盛況となった。数日後、夏目漱石（四五）と一緒にやって来た寺田寅彦（三三）が斎藤と高村の作品を購入予約すると、出品者一同は歓声を上げ、斎藤と高村を胴上げして喜びを分かち合った。当時、展覧会で作品が売れることは稀なことだったのである。

▲岸田劉生とともにヒュウザン会をリードした斎藤與里の「木陰」。油彩。斎藤は後期印象派の画家たちを日本に紹介し、大正期の洋画界の進展に大きく貢献した。

ヒュウザン会第一回展開催の経緯について、斎藤が目録に記している。斎藤は当初、個展を開く予定だったが、会場があまりにも広く、自作だけで埋めることができないとあきらめかけていた。そんな時、岸田と清宮が斎藤を訪ね、話は一気に盛り上がり、友人たちを誘って開催しようということになった。

会の名は素描に使う木炭（ｆｕｓａｉｎ）にちなんで「ヒュウザン」と命名。第二回展では「フュウザン」に変えた。集まった顔ぶれは、後に斎藤が「寄り合い所帯」と呼ぶように、岸田らの白馬会葵橋洋画研究所、萬らのアブサント会、川上凉花ら太平洋画会のメンバーが集合した会となった。

斎藤は明治四一年にフランスから帰国した後、ゴーギャンに影響された斬新な作品を次々に発表し、若手の画家たちから注目されていた。また高村は明治四二年にフランスから帰国後、印象派の絵画理論を紹介し、画学生から敬意をもって見られていた。この若い二人が会の長老格となり、若手では硲伊之助（一六）、鈴木金平（一六）をはじめ、ほとんどが二〇代の若者たちで、雑誌「白樺」や海外からの帰朝者がもたらした印象派や後期印象派、フォービズムの影響を受けた作品を制作・発表した。

第一回展は文展（一〇月一三日～一一月一七日）と会期が重なったため、各ジャーナリズムは「反官展」として取り上げた。会場を提供した「読売新聞」は、一〇月一六日に「清新派の一団、ヒュウザン会美術展覧会、昨一五日より開会」の大見出しをつけ、次のような記事を掲載した。

「文展の会場に何となく、沈滞し、凋落したやうな、何となくもの倦いやうな空気の漂つてゐるのを覚ゆるにひきかへて、パッと目のさめるやうな、わかわかしい力、きびきびした清新な匂ひが溢れてゐるやうに感ぜられ、仏蘭西などの新しい画家の運動なども思ひ合されて非常になつかしいやうな心地がする」

▲萬鉄五郎「女の顔」。油彩、80.3×65.2センチ。第1回出品作。新しい時代の女性を、フォービズムのスタイルで表現した。

岩手県立博物館提供

▲第1回ヒュウザン会展覧会目録。図案は清宮彬。

こうした風潮に対して、岸田は同じ「読売新聞」（一〇月一七日・二一日）に「自己の芸術」と題して、文展に反抗運動を起こしたととられるのは迷惑であり、自分たちが成長するための、ひとつの仕事にすぎないという内容の一文を寄せている。

一世を風靡したヒュウザン会展の内容は、客観的に見てどうだったのだろう。評論や翻訳など広範な文学活動をしていた内田魯庵の展評をのぞいてみよう。

「大部分はゴーガンやマチスやセザンヌの模倣ならざるは無い。諸君が真実に自己を発見したと思われるものは殆ど無い」（「読売新聞」一〇月二五日・二六日）

この内田の評は、今日から見れば客観的かつ適切な評と思えるが、若い岸田劉生らは激しく反発した。

ヒュウザン会は、翌大正二年三月一一日から三〇日まで第二回展を開くが、運動体を志向する斎藤とゆるやかな集合体を主張する岸田の意見が合わず、五月には解散する。あまりにも短期間で、内容的にも未熟ではあったが、革新的な展覧会として注目をあび、画壇に新風を吹きこんだ功績は大きい。今日でもこの若いエネルギーの発露は、日本近代美術史上の画期的な出来事として輝き続けている。

▲岸田劉生「外套着たる自画像」。油彩、39.7×30.5センチ。岸田はヒュウザン会結成に中心的な役割をはたした。後に、デューラーやファン・アイクら、北欧ルネサンスの画家に傾倒。自分の娘をモデルにした、数多くの「麗子像」を描く。

20世紀博物館

切手の博物館 東京・豊島区

収蔵実に二〇万種、切手が来館者に語りかけてくる不思議ワールド

桑原茂夫

▲デザイン統一された切手。同じデザインの中に、違う鳥が次々に描かれ発売された。 平山亮(4点とも)

切手の博物館というと、マニア向けの専門館ではないかと、敬遠してしまう向きもあると思う。かくいう筆者もその一人だった。しかし、実際に足を踏み入れてみると、予想さえできなかった感覚を得て、切手の魅力に心とらわれてしまったのである。

大きな建物の中にあるので、その外観から相当広い博物館だろうと想像していたら、案に相違して博物館スペースは五〇平方メートルほどしかなく、入り口に立った時は、なんだこんなものか、という感想を抱いてしまった。ところがこの感想は、時間が経つにつれて、とんでもない誤解に基づくものだったことを思い知らされた。一枚一枚の切手がこんなにも小さく、しかし、こんなにも豊かな情報量を持っているものだとは気づかなかったところから生まれる感想にすぎなかった。

展示場中央に畳一枚ほどの大きさのパネルが八枚あって、その表裏合わせて一六面に切手が並べられている。面ごとのテーマにそって選ばれた、大部分が本物の切手である。

たとえば「色を表現する」というパネルには、虹が描かれたたくさんの切手と、色鉛筆や白墨(はくぼく)、油絵具などさまざまな画材を使って何かを描いている絵柄の切手が、それぞれ数十枚ずつ貼られている。

小さな切手だから、それらを順に、のぞきこむようにして見ていくことになる。すると、マチスやシャガールが絵筆を手に取っている絵柄の切手など、その一枚一枚が画集の一ページでもあるかのように見えてくるのである。

こういう見え方は、切手をのぞきこむことから得られるようだ。実感に即して言えば、のぞきこんでいるうちに、こちらの体が切手の大きさに合わせて小さくなってしまうのである。これはほとんどの切手から得られる感覚で、〝切手ワールド〟の最大の魅力でもあるのだろう。一見狭い展示場も、実は相当の広さを持っていると言うべきだったのである。

この博物館では、いつもほとんどのスペースが企画展にさかれている。切手のこのような魅力をそこなわないようにするためだ。収蔵二〇万種という膨大な数の切手を一度に全部出されたところで、じっくり見て楽しむ機会が少なくなるだけだろう。

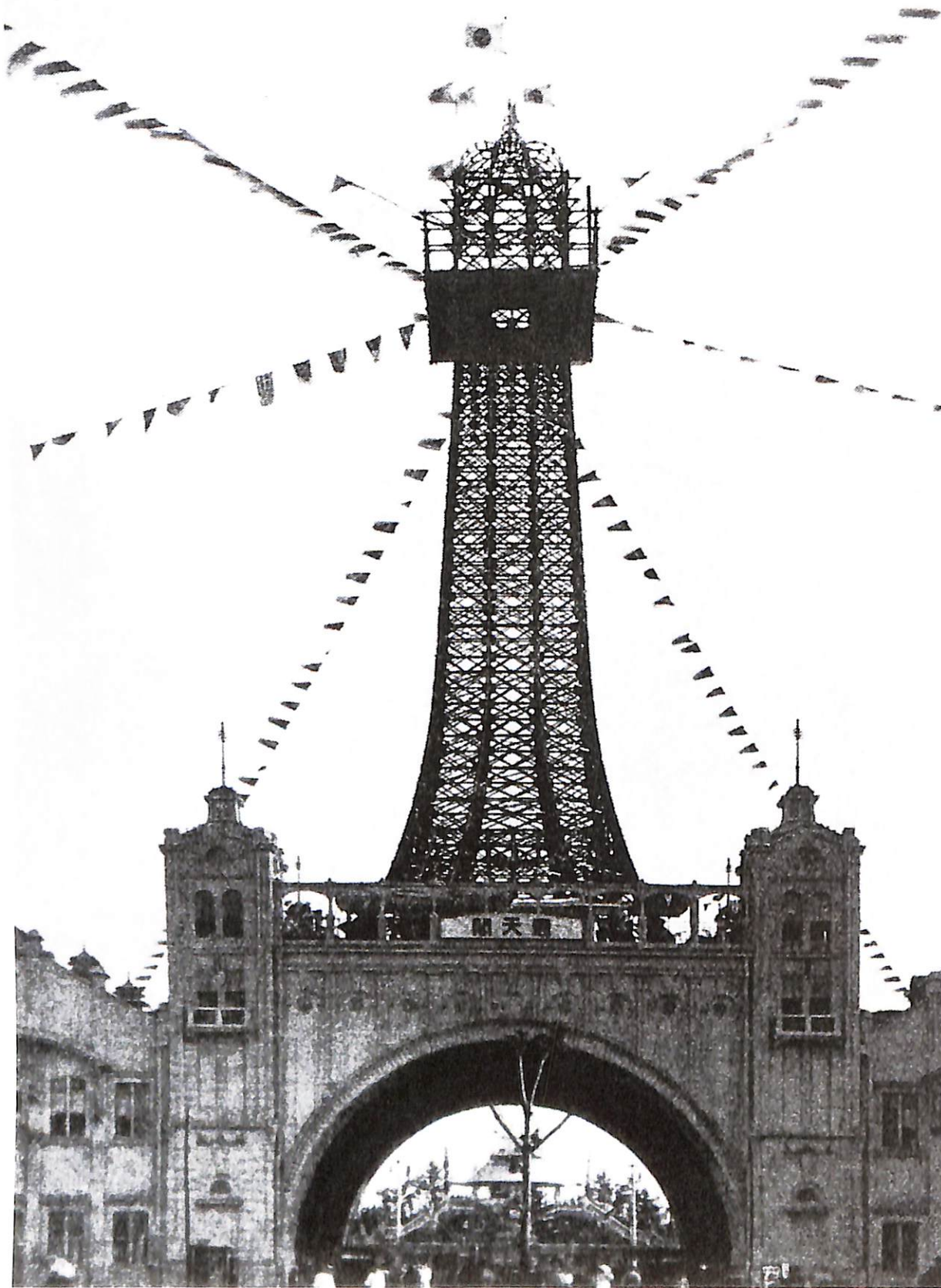
学芸員の田辺龍太さんによれば、館の創設者でもある〝切手博士〟水原明窓(めいそう)さんの遺志による展示方法だそうだ。水原さんは、来館者が切手をさがし求めるのではなく、切手の方から来館者に語りかけるような博物館をめざしていた。だから、あるテーマにふさわしい切手を適当数並べて、切手をじっくり見ることができるようにした。この展示方法に、筆者もみごとにはまってしまったというわけで、おかげで切手の小宇宙に入りこんでしまうような不思議な快感を得ることができた。

▼画家を描いた切手のあるコーナー。〝切手は国が製作する版画ではないか〟という、学芸員の田辺さんの言もうなずける。

▼切手の印刷効果を知るためのコーナーで、左上の切手には黄色が抜けており、それをきちんと刷るとどうなるかが、紙をめくるとわかるしくみになっている。

▲この館の創設者・水原明窓さんの書斎を再現したコーナーが、2階にある。ここには図書室もあって、切手探究にふさわしい環境となっている。

●切手の博物館
東京都豊島区目白一―四―二三
☎〇三―五九五一―三三三一
JR目白駅下車、徒歩三分
開館時間＝一〇時半～一七時
休館日＝月曜日、年末年始、展示替時
入館料＝一般二〇〇円(身障者無料、ふみの日＝毎月二三日は無料)

新しもの好きの浪速っ子が飛びついた娯楽の〝ニューウェーブ〟「新世界」と「吉本興行」誕生!

◀明治45年7月完成の「通天閣」。高さ75メートル。昭和18年の火災の後、解体。現在のタワーは、昭和31年、内藤多仲の設計で再建された。高さ103メートル。

明治四五年、大阪で二つの娯楽施設がオープンした。ひとつは大阪のシンボル、「通天閣」を中心とした「新世界」、他方は吉本吉兵衛とせいが経営する古びた演芸ホールである。「新世界」は、その後、〝紅灯の巷〟に変身して最盛期を迎えるが、通天閣は「吉本興行」(昭和七年、「吉本興業」と改称)の所有となる。

エッフェル塔を模した「通天閣」に話題集中

明治四五年七月三日、大阪市の南のはずれの一角に、数万人の群衆がひしめいていた。この日に開業の娯楽施設、東京ドーム三個分の広さを持つ「新世界」を一目見ようと集まってきたのである。

「新世界」は、建設中から浪速(なにわ)っ子の話題を呼んでいた。なにしろ工事現場の中心の鉄塔が、日ごとに上へ上へと伸びていたからである。後に「通天閣(つうてんかく)」と命名されたその塔は、高さ七五メートル、高層ビルなどない時代だから、大阪の町のどこからでも見られた。九万七〇〇〇円という天文学的な工費をかけたその塔は、パリ

▶「新世界」の中に作られた「ルナパーク」。音楽ホールやスケート場などが設けられた一大アミューズメントセンターだった。

通天閣観光会社提供

のエッフェル塔を模したもので、台座のビルは凱旋門のコピーだった。そのため、「新世界」と命名されるまで、「新巴里」あるいは大阪きっての盛り場の名を取って「第二千日前」と呼ばれていた。

「新世界」は、明治三六年に開かれた第五回内国勧業博覧会の跡地に作られたもので、大阪政財界の肝いりで計画されたもの。当初は、パリにならい、凱旋門中心に八本の放射状道路を設ける予定だった。その後、財政難などで予定は変更されたが、すべて洋風建物のショッピングモールに加え、中心の通天閣一帯に「ルナパーク」という一大アミューズメントセンターを配置。通天閣の南側には興行街、北側にはショッピング、飲食街がある新しい盛り場が誕生したのである。

「ルナパーク」は当時ニューヨークにあったアミューズメントパークをモデルにしたもので、園内にはスケート場、音楽ホール、エジプト館などのほか、何と、〝絶叫マシーン〟まで作られていた。

「新しもの好きの浪速っ子は、明らかに新世界全体をテーマパーク的手法で計画したのでしょう」

『新世界』を題材にした『大阪モダン』の著者である橋爪紳也・京都精華大学助教授は、こう指摘する。

だが、この洋風のテーマパークは、オープニング直後はともかく、その後客足が伸びず大苦戦を強いられる

この「新世界」が活況を呈したのは、「大正芸妓」と呼ばれる女性たちをおく「貸席」が続々とできてからだった「新世界」の中の撤退したテナントの後を、今で言う〝風俗産業〟が次々と侵食していったのだ。もうひとつの理由は、折↖

からの第一次大戦による未曾有の好景気の到来のためだった。さらに、大正七年、新世界から徒歩で一〇分ほどのところに公認の色街「飛田新地」ができたことも追い風となった。新世界は〝健全な娯楽〟の街から〝紅灯の巷〟に変身することで、最盛期を迎えたのだった。

その一方で、「ルナパーク」は何回かのリフォームを行うが客足は伸びず、大正一四年、遊園地は廃止となる。そしてシンボルの「通天閣」も、昭和一三年、身売りすることとなる。新しい所有者は、台頭著しい新興お笑い企業の吉本興業だった。

◀明治45年4月1日、吉本吉兵衛・せい夫婦は「第二文芸館」を借りて、寄席経営に乗り出した。写真は「文芸館」の前で。

吉本興業提供

古ぼけた寄席を入手してスタートした「吉本興行」

新世界のオープンから三ヵ月さかのぼった四月一日、当時の大阪では道頓堀や千日前と並ぶ盛り場だった天満天神裏の娯楽街の一角で、若い夫婦が不安をおさえきれない面もちで寄席太鼓を聞いていた。吉本吉兵衛（二六）とせい（二二）である。傾きかけた荒物問屋の跡を継いでいた二人は、親の反対を押し切り、勘当同然の身で、古ぼけた演芸場の経営に乗り出したのである。

「天満八軒」と言われたこの興行街で、二人が手にした第二文芸館は、古ぼけた建物の、誰が手がけてもだめという、いわくつきの小屋だった。その経営権を二人は、敷金三〇〇円、月の家賃二五円という条件で、手に入れたのだった。若いずぶの素人の無謀な選択に、誰もが前途をあやぶんでいた。おまけに、資金はすべて借金だった。当時の大阪の演芸場の入場料は一五銭程度が平均だったが、第二文芸館の木戸銭は五銭、ほかに下足代二銭、合わせて七銭が入場料だった。吉本夫婦は、ほぼ半額の料金で勝負に出たのである。

また、出演者の構成も話題を呼んだ。当時、昼席はなく、夜席だけだったが、合わせて二一人の出演者のうち、噺家は桂輔六らわずか四人にすぎなかった。残る一七人は曲芸、義太夫、講談などいわゆる「色物」で固めたのである。普通は、噺家の並ぶ中、数組の色物をはさむのがオーソドックスなスタイルだった。〝低価格路線〟と〝即物的な笑い〟という吉本夫婦の狙いは、ズバリ当たった。ほぼ二〇〇人の定員のホールで、一日の売り上げが七円に達していた。そして天神祭りの当日には、なんと三五円を稼ぎ出したのである。定員の二倍半もの客が押しかけた計算だ。ベテラン興行師でさえ二の足を踏むと言われた寄席を、若い二人は奇跡的に立ち直らせたのである。

そして二人は、年の明けた大正二年一月、道頓堀近くに「吉本興行部」という看板を抱えた事務所を開いた。今をときめく吉本興業の誕生である。

その後、吉本興行は、翌年には大阪市内の四軒の寄席を傘下におさめ、興行界に大きな基盤を持つ。そして、内輪もめが続く上方落語界から、中堅の人気噺家を一人一人引き抜く一方、放縦な私生活を送っていた桂春団治を所属させ、また、漫才ブームを演出するなど、大正期末までには全国に直営、提携の寄席合わせて二八館を擁する「笑いの王国」を築き、昭和一三年、大阪のシンボル、「通天閣」を三一万円で買収、オーナーとなるのである。

▶吉本吉兵衛。芸人道楽が昂じて、寄席経営に乗り出す。

吉本興業提供

▶吉本せい。寄席を次々に買収、チェーン化をはかった。

吉本興業提供

7~8月

フォト＋日録で再現する366日

▶**宝塚パラダイス開場（7月）**明治42年の箕面有馬電気軌道の開通、新温泉湧出に続いて遊園地もでき、行楽客が急増。写真は室内プールだが、女性は入場できなかった。大正3年、宝塚少女歌劇のパラダイス劇場に改造。

池田文庫提供

▼**救命艇開発（7月9日）**「タイタニック号」沈没で注目の折、日本海海戦以来研究を続けてきた今泉辰次郎が完成。東京・月島で、通常は格納しておける、安全性の高いボートを発表した。

毎日新聞社

ARCHIVE PHOTOS

▶**米国初の外国映画（7月12日）**サラ・ベルナール主演の仏映画「エリザベス女王」が上映され、高い評価を受けた。サラは「椿姫」などで世界的名声を博した、美貌の舞台女優だった。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

◀**チャーチル対カイザー（7月22日）**英海相（右）がドイツ皇帝・ウィルヘルム2世（左）と、会談。最近の両国の激しい海軍拡張競争に関し、チャーチルは、ドイツが勝つ見こみはないと公言。

▶**「お菓子」の楽隊宣伝隊が登場（7月）**森永がドラムやラッパを奏で、東京市中を行進。新発売の「ミンツ小袋入り」やキャラメルばら売り1粒各5厘を配って人気を呼んだ。森永は、明治43年にロンドンの博覧会に出品し、名誉大賞牌を受賞している。

森永製菓提供

▶**隅田川に新大橋完成（7月19日）**老朽化した木橋が、鉄筋コンクリートの基材を石・煉瓦で装飾したモダンな橋に変身した。深川・日本橋両区を結ぶ要衝にふさわしいものとなった。全長約173 、幅約14メートル。

「写真タイムス」

明治45　大正元年7月

1（月）●米価暴騰し、堂島米市場が一時立ち会い停止。
●東京市内の自動車数が一八〇台を突破したため、取締規制を改正。制限速度一六キロ。

2（火）●保安林特別補償規則公布。所有権侵害を補償。

3（水）●大阪・天王寺に、「新世界ルナパーク」開業。

4（木）●東京の戸塚小学校で全校生徒にツベルクリン接種を実施。父兄に承諾を求めず問題化。

5（金）●ロンドンで国際無線電信条約調印式。
●「ローマ字ひろめ会」、漢字廃止などの演説会。

6（土）●日本・オランダ通商航海条約締結。

7（日）●警視庁、市内の非行少年二〇〇人を一斉検挙。

8（月）●第三回日露協約調印。秘密協定で、内蒙古の日露両国の勢力範囲を拡大。

9（火）●鉄道院、施米用の米の運賃割り引きを実施。

10（水）●東京・有楽町に「タクシー自動車」設立（8月15日、開業）。

11（木）●米国船だけを無税とする米国の「パナマ運河通行税法案」に英が抗議。

12（金）●米国で仏映画「エリザベス女王」（サラ・ベルナール主演）公開。米国初の外国映画上映。

13（土）●紡績連合会、大阪で操業短縮につき協議。

14（日）●駿東実業銀行、駿河銀行と改称。

15（月）●東京中央郵便局、郵便自動車を使用開始。

16（火）●「仏露海軍協定」調印。仏は地中海、露は黒海を、勢力範囲として互いに承認。

17（水）●西成線・福島—安治川口間の複線化完成。

18（木）●巡洋艦「浪速」が千島沖で座礁・沈没。

19（金）●東京・隅田川の新大橋開通式。

20（土）●宮内省、「天皇が尿毒症で重体」と発表。

21（日）●アルバニアで、トルコの支配に対し反乱。

22（月）●英海相・チャーチル、独に対抗するため、海軍増強を要求。

23（火）●富山県下に豪雨、小川温泉一帯で旅館などの破壊流出相次ぎ、旅行客ら二〇人以上が死亡。

24（水）●モンゴルが露の保護領になる。

25（木）●朝鮮の京城（ソウル）—元山間鉄道のうち、議政府—漣川間で営業開始。

26（金）●天皇重体の官報で、株価が恐慌的暴落。

27（土）●東海道線・島田—金谷間の複線化が完成。

28（日）●伸び悩みの郵貯が急増、節約定着かと新聞に。

29（月）●天皇危篤の報で、各地の寺社に参拝者の列。

30（火）●天皇崩御、五九歳。明治天皇と諡号。皇太子嘉仁親王が践祚、大正と改元。

31（水）●歌舞音曲停止、囚人服役特免開始（五日間）。

証言・あの日この日
谷崎潤一郎（26）

8月8日（木）　〈小生御蔭を以て去る八日徴兵検査に首尾よく不合格、此れについてはお須賀さんの盡力一方ならず、わざ〳〵炎天に麻布の知人の軍医を訪問して、いろ〳〵検査のがれの秘術を伝授致され候。のがれたお祝に先日ウント風月の洋食を御馳走致し候処、あまり食ひ過ぎて二三日下痢を起され、お気の毒に存候。此れにつけても慎む可きは女子の健啖に候〉（谷崎潤一郎『谷崎潤一郎全集』第25巻）

憲法20条によって国民（男子）には「兵役の義務」が課されていた。文壇にデビューしたばかりの谷崎は、徴兵検査のことで悩み、一時神経衰弱になった。しかし念願かなって、「脂肪過多」が原因で不合格となり、再び活発な執筆活動を開始する。この年、徴兵検査を受けた人数は約45万人、甲種合格16万人だった。（山崎行太郎）

「写真タイムス」

▲**タクシー始まる（8月15日）**東京・有楽町に「タクシー自動車株式会社」が開業。午前5時から午後11時まで、フォード6台を用いて新橋、上野で客待ち。料金は最初の1マイル60銭、以後1マイルごとに10銭増しだった。

▲**友愛会発足（8月1日）**鈴木文治が創設、会員15人。本部を東京・三田のユニテリアン派統一基督教会においた（写真）。後、組織を拡大、日本労働総同盟に。

毎日新聞社

▲**巨大飛行船、登場（8月31日）**陸軍がドイツから輸入した軟式飛行船で、「パルセバル号」と呼ばれた。国産飛行船の3倍の容積を持つ大型機で、購入費用は23万円。3月に舶着し、所沢飛行場で組み立てられ、この日、初飛行の日を迎えた。

▼**東京株式取引所が哀悼（8月1日）**明治天皇崩御をいたみ、1日休業。立会場の周囲に黒白の幕を張り、中央に祭壇をおいて「先帝奉悼式」を挙行した。株式取引所は、後の東京証券取引所である。

「写真タイムス」

▶**施米に行列（8月4日）**米価騰貴で困窮する人々を見かねて、東京・深川の廻米問屋がラングーン米を無料提供、早朝から、多数が詰めかけた。午後には、用意した1人1升3500人分が、全部なくなった。

「写真タイムス」

大正元年8月

1（木）●「友愛会」結成。労働者の厚生、相互扶助をめざす（日本労働総同盟の前身）。

2（金）●内閣、一般人の喪章着用に関し、質素を指示。

3（土）●台湾の台北で、鉄道・軌道一〇〇〇哩祝賀会。

4（日）●米共和党分裂、反タフト派が「革新党」を結成。

5（月）●トルコ、議会を強制解散し全土に戒厳令。

6（火）●名古屋電鉄、枇杷島橋—西因田間、岩倉—犬山間、計三一・五キロが開通。同社初の郡部線。

7（水）●ハワイで日本人移民上陸拒否が激増と新聞に。

8（木）●鉄道院、上野—青森間の「最大急行」を検討。

9（金）●仏首相が訪露、露のバルカン政策を支持。

10（土）●田熊常吉が「タクマ式ボイラ」を発明、ボイラー輸入に歯止めがかかる。

11（日）●“実写映画”「オリンピック大競技会第一報」（吉沢商店提供）、東京の電気館で封切。

12（月）●オランダのハーグに私立体育大学開設。

13（火）●内大臣兼侍従長に桂太郎が任命される。

14（水）●ブルガリア、トルコにマケドニアの自治要求。

15（木）●手動式の塵埃吸収器「バキュームクリーナー」（掃除機）発売。価格は六〇円。

16（金）●台湾の淡水と長崎の間に直通電信が開通。

17（土）●困窮者救済を目的に、大阪で「弘済会」設立。

18（日）●盛岡市の映画館でガス爆発、一七人負傷。

19（月）●兼松商店、匿名組合に組織変更し、従業員一八人に持株を分与。

20（火）●奈良県の被差別民が「大和同志会」を結成。

21（水）●千葉県の木更津線・姉ケ崎—木更津間開通。

22（木）●英で、万国数学大会開催。日本代表の藤沢利喜太郎理博が、日本のそろばんを紹介。

23（金）●高知県室戸に台風、家屋倒壊・負傷者多数。

24（土）●長崎県松浦郡長、近年増加中のトロール漁船は資源に悪影響とし、知事に取締りを要請。

25（日）●中国の宋教仁ら、国民党結成（理事長・孫文）。

26（月）●衆議院の無所属議員四〇人が、社交クラブを結成、「同志会」と命名。

27（火）●香川県内の赤痢による死者は過去一年間で三三五人、と新聞に。

28（水）●陸軍、東京の戸山学校から戦術科・射撃科を独立させ、千葉県習志野に歩兵学校を設置。

29（木）●東京の池上本門寺で、日蓮宗主催の明治天皇奉悼大法要、軍人・政治家ら多数出席。

30（金）●東京音楽学校、能楽囃子科生徒募集規定を決定。能楽囃子の保存をはかる。

31（土）●トロール漁業取締規則改正、禁止区域拡張。

「写真タイムス」

▲野球「諒闇」明け（9月28日）天皇崩御で服喪していた大学野球チーム、早大と明大が東京・東中野の柏木運動場で対戦。成績は1勝1敗で、2年前に開部したばかりの明大が初めて早大を破り、大いに自信を深めた。写真は両校選手。

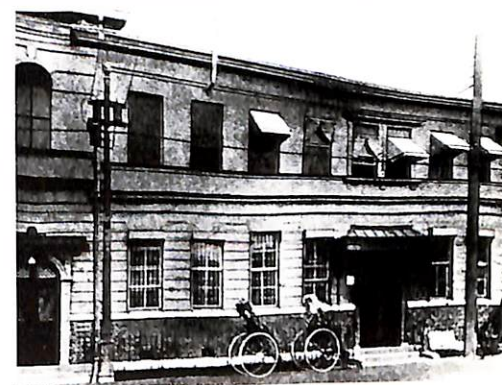
「写真タイムス」

▲岩倉鉄道学校、焼失（9月15日）東京・下谷区の2階建て587坪を焼き、付近にも延焼。全焼5戸、半焼10戸を数えた。原因は漏電。同校は明治30年、鉄道員養成を目的に創立された。

毎日新聞社

◀夏目漱石、静養（9月）大学予備門同級の満鉄総裁・中村是公（左）、その同僚の理事・犬塚信太郎（中）と塩原・日光などを旅行。この頃、体調はよくなかった。

毎日新聞社

▲迪宮（みちのみや）裕仁親王、陸海軍少尉に任官（9月9日）大正天皇即位とともに皇太子となり（後の昭和天皇）、伝統に従い陸海軍に入隊。写真は陸軍少尉正装姿の親王。明治天皇崩御直後だったため、左腕に喪章が見える。学習院初等科の、11歳の少年だった。

▶日活設立（9月10日）有力映画会社のエム・パテー商会、吉沢商店、横田商会、福宝堂が合併。大正5年には人気俳優・尾上松之助と提携、日本最大の映画会社となった。写真は、東京・赤坂の本社事務所。

◀新潟に新発田駅開業（9月2日）新津から27.3キロの新発田線が開通、一番列車出発でにぎわった（写真）。後に村上線、酒田線ができ、大正13年に村上―鼠ケ関間接続で秋田まで全通、羽越本線と称した。

大正元年9月

1（日）●長野・大阪両林区署合同探査隊、北アルプスで、木曾山中に勝る良質の大森林を発見。
2（月）●新潟県の新発田線・新津―新発田間が開通。
3（火）●東京・芝浦で、マグネシウム利用の写真撮影用照明具開発実験に失敗、一人即死、五人重傷。
4（水）●天長節だった一一月三日を「明治天皇祭」とする（後に明治節、戦後は文化の日と改称）。
5（木）●農商務省はトロール漁業監視船の新造を検討中、と新聞に。
6（金）●蒙古独立運動鎮圧に出撃した中華民国軍は、反撃にあい各地で苦戦。
7（土）●内閣、東京の水道拡張計画（村山貯水池案）を認可。
8（日）●鉄道院、貨物運賃改定。総額一五〇万円低減。
9（月）●「日清蓄音器」設立（以後、レコード会社の設立がさかんになる）。
10（火）●日本初の本格的映画会社、「日本活動写真」（日活）設立。
11（水）●仏のフールニ、ファルマン機による連続周回飛行で、一〇〇〇キロの世界記録を樹立。
12（木）●ブルガリア、トルコに対しマケドニアの自治を要求。
13（金）●明治天皇大喪。乃木希典大将夫妻が殉死。
14（土）●東京から京都へ、明治天皇大喪列車が出発。
15（日）●トルコとモンテネグロのゲリラが交戦。
16（月）●「国民新聞」、乃木大将の遺書をスクープ。
17（火）●大阪の才賀電気商会が破綻、八〇社に影響。
18（水）●久原鉱業所が株式会社に改組、日立製作所などを経営。
19（木）●中越鉄道（現・氷見線）、島尾―氷見間開通。
20（金）●台湾総督府、台湾蚕業奨励規則を発布。
21（土）●米価対策で輸入の外米に買い手なしと新聞に。
22（日）●入超続きの貿易収支、三ヵ月連続出超と判明。
23（月）●大型台風が全国各地を通過、岐阜県だけで五〇〇〇戸全壊、一五〇人以上が死亡。
24（火）●米国、秩序回復理由にサントドミンゴに干渉。
25（水）●松竹が女優養成所を開設。
26（木）●恩赦令など施行、五三三人に恩赦。
27（金）●中国、漢口の居留地外での日本の兵営建設に抗議。
28（土）●東京にコレラが蔓延、と新聞に。
29（日）●日本郵船の新造船「近江丸」、上海へ初航海。
30（月）●バルカン諸国が総動員令を発令、ロシアもポーランドで演習動員、バルカンの危機高まる。

THE GRANGER COLLECTION／デジタルハウス

▲ルーズベルト、遊説中に撃たれる（10月14日）共和党を割り、革新党を結成して大統領選に出馬したことが恨みをかった。彼は負傷にめげず、この後8時間も演説を続けた。

「写真タイムス」

▲暴風雨荒れ狂う（9月22日）足摺岬に上陸した台風が近畿・北陸を横断、各地に大被害をもたらした。写真は東京・深川の倒壊家屋。この時、東京は、台風の中心から600キロ以上も離れていた。

▼第1次バルカン戦争勃発（10月17日）ギリシャなど4ヵ国がトルコに宣戦布告、イスラム勢力の一掃をはかった。かつて強大を誇ったトルコ軍は各所で敗走。写真は、凱旋するセルビア軍。

▼拓殖博覧会開催（10月1日）東京・上野不忍池畔で、台湾の喫茶店などの展示・催し。日本の新しい「領土」に関心を向けさせようとする、露骨な意図が背景にあった。

「写真タイムス」

石井行昌／京都府立総合資料館提供

▲大丸本店、京都に復帰（10月15日）四条高倉に、インド・サラセン風3階建て店舗を建築、本店とした。1階には旅行用品、化粧品、3階には食堂、屋上には運動場もあるデパート形式。写真は翌夏撮影。

「写真タイムス」

▶与謝野晶子、パリから帰国（10月29日）前年11月に旅立った夫・寛を追って、5月に出発。欧州各国で多くの文人と交遊、女性解放の意を強くした。写真は、東京・新橋駅で愛児の出迎えを受ける晶子。33歳だった。

大正元年10月

1（火）●拓殖博覧会、東京・上野公園で開催。
2（水）●コレラ流行で千葉県が東京の屎尿・塵芥移入禁止、肥料として利用の農家は困惑と新聞に。
3（木）●東京で警官が賭場を包囲、三五人逮捕。
4（金）●仏、バルカンでの戦争防止のための共同行動を列強各国に提案。
5（土）●北海道の野付牛（現・北見）―網走間が開通し、網走と根室本線池田駅間が全通。
6（日）●コレラ流行で、漁業関係者の打撃深刻。
7（月）●海軍、飛行機操縦教育を開始。
8（火）●鉄道院、駅員用前掛け・胸当てなどの制服制定。
9（水）●「東京朝日新聞」、東京市が各戸に配布した「コレラ予防の心得」全文を掲載。
10（木）●横浜水上署、窃盗犯らの乗る船六隻を羽田沖まで追跡、一八人検挙。
11（金）●京浜倉庫連合会成立。
12（土）●東京・池上本門寺の会式に五万人が参集。
13（日）●豪政府、人口増加策として新生児への奨励金一人二五ドル支給を発表。
14（月）●米のルーズベルト大統領候補、狙撃され重傷。
15（火）●高村光太郎ら、ヒュウザン会第一回展。
16（水）●斎藤実・瓜生外吉、海軍大将に昇進。
17（木）●バルカン諸国が相次いでトルコに宣戦布告、第一次バルカン戦争始まる。
18（金）●伊・トルコのトリポリ戦争終結。伊はトリポリとキレナイカを獲得しリビア植民地と命名。
19（土）●「朝日新聞」、船員の劣悪な労働条件を批判。
20（日）●警視庁、悪漢を英雄化して描く映画「ジゴマ」などの上映を禁止。
21（月）●鉄道院、天皇行幸のため、川越線で列車試走。
22（火）●東京市、伝染病予防費一万五〇〇〇円を支出。
23（水）●海軍の金子養三大尉、仏のファルマン式水上機二機を購入して帰国。
24（木）●新登場の空気タイヤ人力車の高額賃借料をおそれた車夫三〇〇人、警視庁に使用制限嘆願。
25（金）●満州で、吉長鉄道（吉林―長春）が全通し、営業を開始。
26（土）●東京酒類・醤油品評会開催、三一四点出品。
27（日）●後の朝鮮独立運動家・安在鴻、朝鮮人留学生学友会を組織。
28（月）●徳川式飛行機、東京一周飛行に成功
29（火）●与謝野晶子、六ヵ月の欧州旅行から帰国。
30（水）●英のシェークスピア劇団が、公演のため来日。
31（木）●朝鮮野球団が来日。早大・麻布中学などと対戦

「写真タイムス」

▲京成電車開通（11月3日）東京―成田を結ぶ路線のうち、本所押上―市川間（現・京成本線）、曲金―金町間（現・京成金町線）の工事が落成、それぞれ営業を開始した。写真は中川を渡る中川鉄橋。運賃は1区間3銭。

森永製菓提供

▲森永製菓誕生（11月1日）この日、2年前に株式会社となっていた森永商店が、現社名に改称した。明治32年創業、キャンデー、キャラメルなどで国内に確固たる地位を築いていた。写真は、フル操業する東京・田町の芝田町工場。

▲海軍、飛行機初輸入（11月）フランス製のモーリス・ファルマン水上機で、6日、組み立てを終わり、初飛行にこぎつけた。同型機は計4機輸入され、大正3年には実戦に参加。海軍はこれと並行して、アメリカのカーチス水上機も購入した。

▶武者小路実篤、「新しき恋」（11月）翌年結婚する竹尾房子（20）との交情を、『世間知らず』に記した。実篤は27歳。大正7年には理想郷建設に燃え、房子を含めた総勢20人で宮崎県日向に「新しき村」を建設、移り住んだ。

▶戦艦「比叡」進水（11月21日）国産初の超弩級戦艦、民間の造船所で建造された初の主力艦など、記念すべき艦だった。また、本艦以降、日本は欧米の模倣から脱け出した。

「写真タイムス」

松竹提供

◀「松竹女優」デビュー（11月25日）松竹合名社・白井松次郎が「女優養成所」を創設、158人の応募者から20人を採用した。前年、川上貞奴を指導者として帝国劇場が初めて舞台女優を育てて、評判となっていた。

▲古代エジプト王妃、ネフェルト・イティの胸像発見（12月7日）独の考古学者・ボルハルトが、前14世紀頃に栄えた王都・アケトアトンのあったエジプトの村で発見。夫・アメンヘテプ4世の栄華を彷彿とさせた。

「写真タイムス」

▲西園寺公望内閣、窮地に（12月）上原陸相の辞任により、首相官邸はにわかに騒然。写真は、新聞記者の姿が目立つ官邸前。5日、内閣総辞職、十日あまりの混乱の後、桂太郎が後を継いだ。

毎日新聞社

▲小山内薫、欧州へ（12月15日）翻訳劇に飽きたらず、露・独などの演劇界を視察。写真は柳橋での歓送会。前列右から6人目が小山内。正宗白鳥、徳田秋声、島崎藤村らが出席した。

▶宮崎県で西都原古墳群を発掘（12月）一ツ瀬川西岸台地に5～6世紀の円墳・前方後円墳などを発見、貴重な資料となった。後に発掘された古墳は311基にも。

宮崎県立総合博物館提供

「風俗画報」

▶救恤鍋出まわる（12月）米価騰貴のうえ「諒闇」が不景気をあおり、街角には、「この鍋に入れた金は貧民の雑煮餅になる」というような、寄付金を募る鍋が目立った。

▼大木戸、大阪相撲横綱に（12月）たび重なる優勝に、大阪角力協会は住吉神社の免許を授与。無視された吉田司家は協会もろとも破門、2年後のこの年、やっと正式の横綱になった。

毎日新聞社

大正元年 11月

1（金）●森永製菓、外国販売部をおき輸出品製造開始。
2（土）●海軍のカーチス式水上機が、横須賀で初飛行（日本における海軍水上機の初飛行）。
3（日）●露・モンゴル条約調印。露がモンゴル独立を承認し、土地租借などの特権を獲得。
4（月）●鉄道院、鉄道拡張計画に、盛岡―秋田、熊本―宮崎、八幡浜―須崎間などを追加。
5（火）●米大統領選挙、民主党のウィルソンが圧勝。
6（水）●参拝に供されていた明治天皇の葬場殿を、この日で閉鎖。
7（木）●「ブラジル拓殖会社」設立。移民拡大めざす。
8（金）●フィリピン議会、米新大統領に独立を要求。
9（土）●ギリシャ軍、サロニカを占領。
10（日）●四国水力四縄発電所が送電開始。独・シーメンス社の発電機使用し、発電能力二〇〇〇キロワット。
11（月）●皇太子、海軍少尉として第一艦隊で赴任式。
12（火）●米国で、エリソン大尉操縦のカーチス機がカタパルトからの発進実験に成功。
13（水）●中国、川漢鉄道を国有化。
14（木）●東京・帝国ホテルで、両毛織物鑑賞会開催。群馬・栃木両県産の二〇〇〇点を陳列。
15（金）●陸軍特別大演習、飛行機・飛行船が初参加。
16（土）●中国の津浦鉄道（天津―浦口）全通。
17（日）●天皇が所沢に行幸、飛行機演習を観閲。
18（月）●北見―留辺蘂間、鉄道開通。石北線の工事進む。
19（火）●優勢のバルカン諸国、講和の条件として、トルコのヨーロッパからの全面撤退を要求。
20（水）●増車相次ぐ東京市電、不足電力は購入と決定。
21（木）●東京・日本橋の寄席「富松亭」で火災、損害額一万円を火災保険六〇〇〇円で補う。
22（金）●上原勇作陸相、朝鮮での二個師団増設案を閣議に提出（30日、閣議は否決）。
23（土）●栃木県の鬼怒川水力発電所、通水式挙行。
24（日）●第二インター、バルカン戦争拡大防止を列強、特に独・オーストリアに要求（バーゼル宣言）。
25（月）●日伊通商航海条約調印。
26（火）●東京商業会議所、師団増設反対・行政整理実行要求を表明。
27（水）●仏・スペイン、タンジール協定調印。モロッコでの両国の勢力範囲を決定。
28（木）●アルバニア、トルコからの独立を宣言。
29（金）●内務省の感化救済事業講習会、終了式。
30（土）●仙台市が宮城紡績電灯を買収、電力供給事業を引き継ぐ。

大正元年 12月

1（日）●警視庁、初めて警察犬を採用。
2（月）●上原陸相、師団増設問題で単独辞表提出。
3（火）●トルコ・ブルガリア・セルビア、休戦条約に調印。ギリシャは不参加。
4（水）●宮城前で輸送中の電気機械が炎上、一時騒然。
5（木）●西園寺内閣、陸相の後任を得られず総辞職。
6（金）●夏目漱石「行人」、「朝日新聞」に連載開始。
7（土）●独の考古学者・ボルハルト、エジプトで古代エジプト王妃・イティの胸像を発見。
8（日）●東京の三越百貨店に一分間写真登場。
9（月）●東京・築地本願寺で火災、構内の盲学校全焼。
10（火）●中国で初の国会議員選挙。国民党が多数。
11（水）●仏のカレル、ノーベル医学・生理学賞受賞。
12（木）●現在の飛行機の速度記録は時速一〇八マイル、自動車は一三七マイル、と新聞に。
13（金）●東京の新聞記者・弁護士など、「憲政作振会」結成、師団増設に反対。
14（土）●慶大出身実業家らの社交団体・交詢社有志、憲政擁護会を組織。
15（日）●政友会三派、官僚政治根絶・憲政擁護を決議。
16（月）●バルカン戦争に関するロンドン講和会議開催。
17（火）●桂太郎に組閣命令。斎藤海相、海軍充実計画延期に反対し、留任拒否（21日、勅命で翻意）。
18（水）●米議会、文字を読めない人の移民禁止を決議。
19（木）●東京で憲政擁護大会開催（以後、全国各地で開催。第一次護憲運動）。
20（金）●島崎藤村「千曲川のスケッチ」刊行。
21（土）●デンマーク・ノルウェー・スウェーデンの三国、戦時における中立を宣言。
22（日）●靖国神社で新刀の試し斬り大会。二枚重ねの包丁を両断して見物をうならせる。
23（月）●北海道・夕張炭坑で爆発事故、二一六人死亡。
24（火）●山県有朋邸に青年が侵入、暗殺はかる。
25（水）●吉田司家で、大木戸の横綱授与式。
26（木）●中華民国からの初の留学生が東京着。
27（金）●憲政擁護運動で野党結集進む中、桂太郎首相が新党計画発表、政友会切り崩しをはかる。
28（土）●サンフランシスコでトロリー式の市営ストリートカーが運行開始。
29（日）●東京・赤坂の江戸見坂で、一八歳の青年が東京で初めてのスキーを試みる。
30（月）●近代の対朝鮮外交の先駆者・花房義質が、日本赤十字社社長に就任。
31（火）●内地人口五[illegible]五[illegible]万人、東京市は[illegible]万人。

俄楽多市

流行語
世の中の不景気に追い打ち

「諒闇不景気」。明治四五年は、春から夏にかけて米価が異常に高騰、景気は急速に下降線をたどった。そこへ明治天皇崩御による歌舞音曲の停止などが追い打ちをかけ、たちまちどん底へ。このため天皇の喪中（諒闇）がもたらした不景気という意味でこう呼ばれた。

「あした待たるる宝舟」。人気浪曲師・吉田奈良丸の「奈良丸くずし」の一節で、「水の流れて人の身は、あした待たるる宝舟」から出た言葉。不景気の中で、「あしたこそ宝舟が来ないかなあ」という期待をこめて使われた。その逆に「水の流れて人の身は」という文句を、自嘲気味につぶやくことも多かった。

「大正屋」。年号が明治から大正に変わって一ヵ月と経たない八月、「大正屋」など屋号に大正をつけた店が続出した。そのほか「大正結び」「大正維新」など、大正という言葉が氾濫した。

「蓄音器」。おしゃべりな人、または他人の噂を言いふらす人。明治四四年頃から蓄音器が大流行。それをもじったもの。

▲11月3日、100歳以上の人および100歳に近い人々による「百歳会」の発会式が、同会会長の大隈重信（帽子姿）邸で行われた。最高齢は113歳。

「写真タイムス」

CM100年

雑誌CM「『アゝラ』不思議や……――ニッポノア蓄音機」（日本蓄音器商会＝現・日本コロムビア）

▲アメリカから渡来、マスコット人形として人気のビリケン人形を取り入れた。

食
ビールに一大革命！ コルク栓から王冠栓へ

それまでコルク栓だったビールが王冠栓に替わったのは明治四五年である。王冠栓が日本に初めて輸入されたのはその十数年前だが、当時のビール瓶は棒の先にガラス種をつけて、まわしながら吹いて型にはめていたので、機械製に比べると寸法が不ぞろいだった。このため明治三四年、試験的に王冠栓を使ってみたが、ビールの中の炭酸ガスが瓶と栓のすき間からもれて、気抜けビールになってしまった。その後、機械製瓶ができるようになって、王冠栓も可能になったのである。

ただしコルク栓を好む人も多く、全面的に王冠栓に替わったのは第一次世界大戦になって、戦争景気でビールの注文が急増してからである。

（キリンビール編『ビールと日本人』）

データ
トップは「弁護士・太郎」 議員の職業と名前

五月の総選挙で当選した三八一人の議員の職業と名前を調べてみると、そこに大いなる傾向をみいだすことができる。すなわち職業について言えば、弁護士四九人、銀行会社業四三人、農業四二人、新聞・雑誌記者二九人、実業家二七人が上位を占め、これだけで議員の半数に達する。後は一〇人にも満たない。

名前の方は職業ほど顕著ではないものの、太郎もしくは名前に太郎の字が入るものが三八人と、それだけで一割に達し、続いて助（介、輔を含む）が一八人、この後は三郎一九人、次郎一七人、そして吉のつくものが一四人、となっている。

（「新愛知」八月一五日）

流行
床飾りに人気 〝珍草〟阿寒湖の毬藻

最近、毬藻と称する珍草を水盤やガラス容器に入れて、床飾りにすることが流行している。毬藻は深緑なる海綿状の植物で、その艶々しさが風雅さを漂わせている。

この珍草は明治三八年、植物学者の川上滝弥氏が北海道・釧路の阿寒湖の水底から初めて採取したもので、日本では阿寒湖のほかに産地はない。水中におけば、さかんに水を吸収して形状増大し、たとえ水がなくても三、四ヵ月は大丈夫だという。

（「風俗画報」一一月五日号）

◀森田太三郎が描いた、作家・田山花袋の似顔絵マンガ。森田はこの年、この時代には珍しい似顔絵マンガ集『名流漫画』を刊行する。

日本漫画資料館提供

はやり歌

都ぞ弥生

作詞 横山芳介
作曲 赤木顕次

都ぞ弥生の雲紫に
花の香漂う宴遊の筵
尽きせぬ奢りに濃き紅や
その春暮れては移ろう色の
夢こそ一時 青き繁みに
燃えなん我が胸 想いを載せて
星影さやかに光れる北を

人の世の
清き国ぞとあこがれぬ

豊かに稔れる石狩の野に
雁はるばる沈みてゆけば
羊群声なく牧舎に帰り
手稲の巓 黄昏こめぬ
雄々しく聳ゆる楡の梢
打ち振る野分に破壊の葉音の
さやめく甍に久遠の光
おごそかに
北極星を仰ぐかな

▲明治38年に建てられた札幌農学校の「恵迪寮」（写真）で、その最初の寮生たちの寮歌のひとつとして、この年「都ぞ弥生」が作られ、全国的に流行した。

北海道大学提供

春の小川

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一
文部省唱歌

春の小川は さら〳〵流る
岸のすみれや れんげの花に
においめでたく 色うつくしく
咲けよ咲けよと ささやく如く

春の小川は さら〳〵流る
蝦やめだかや 小鮒の群れに
今日も一日 ひなたに出でて
遊べ遊べと ささやく如く

春の小川は さら〳〵流る
歌の上手よ いとしき子ども
声をそろえて 小川の歌を
うたえうたえと ささやく如く

▲現在のNHK放送センター近く（渋谷区代々木3丁目あたり）を流れていた河骨川の様子を歌ったのが「春の小川」で、現在、その地に記念碑がある。

大畑俊男

三面記事
人類最初の叡智「ふんどし」

日本民俗学会は、五月五日、帝国大学山上御殿において発会式を行い、人類学の泰斗、坪井正五郎博士が「ふんどし」についての講演を行った。それを要約すれば、

「日本の『ふんどし』には袴の型をしたさるまた、細い布を巻きつけた越中および腰巻きの三種類があり、西洋でもアダムとイブの時代には皆裸体であったが、木の葉で腰部をおおい、さらにこれにひもをつけて『ふんどし』とした。この点からすると、世にあるもので人間の手になるものの始まりは『ふんどし』だと言ってよい。

マレーや南洋あたりでは主として細い布を『ふんどし』とし、『支那』（中国）や朝鮮から大陸ではさるまた式である。従って、日本人は南洋諸島のと大陸のとを併せて用いている」

というのである。また博士によると、日本の女性は腰巻きをまとっているが、これは南洋風で、中国からヨーロッパにかけてはさるまた状であるという。

（「報知新聞」五月六日）

▶五月五日、ロシアのペテルブルグで、ボルシェビキの機関紙「プラウダ」（日刊）が創刊された。プラウダは「真理」の意。

社会
天皇の病気で 市電の珍防音策

天皇ご不例の折から、市電の濠端線・日比谷より半蔵門外にいたる路線は、お濠の向こうの宮廷内に音響が達するというので、七月二〇日以来徐行運転を実施しているが、さらに日比谷を中心に、宮城に接近する路線はすべて徐行することとなった。

松本電気局長は宮内省に出頭して運転を中止すべきではないかと伺いを立てたところ、「交通を遮断するにおよばず」との恩命だった。しかし同局では種々考慮のすえ、線路の軌道にボロを敷いて音を止めようと決し、二二日午後から三宅坂交差点でこれを実行した。

（「東京朝日新聞」七月二二日）

風俗
娼妓一人に青年三九人 遊廓の実情調査

廃娼運動がさかんになってきたが、今日の遊廓はどんな状態にあるか？ その実情をさぐってみた。東京では人口二九七万七九〇〇人で、貸座敷の数が五八〇、娼妓の数が六七八二人であるから、これを無配偶の青年に割当ててみると、青年一〇〇〇人に対して娼妓が二五人強、娼妓一人に無配偶青年が約三九人となる。

吉原遊廓について娼妓の年齢などを見ると、一番多いのは二一歳の五四四人で、続いて二二歳の四七一人。以下、二〇歳＝四一〇人、二三歳＝二六五人、二四歳＝一五三人で、最年増は二七歳＝一三人、一八歳＝一一人である。出身地別では新潟県の四五一人が一番多く、二位が東京の四四四人、三位、岐阜県の三八三人。続いて愛知、山形、茨城、三重の順となっている。

ちなみに遊廓で客の消費する金は、東京だけで一ヵ月、約四〇万円、遊客の数は三〇万人、したがって一人が一回に一円三〇銭くらい使っている勘定になる。

（「東京日日新聞」一一月四日）

◀この年、浪曲師・桃中軒雲右衛門のレコードが各社から出され、話題となった。写真はライロホンから出た「赤垣源蔵」。

▶慶応大学の相撲部が、五月一〇日、横綱常陸山（写真中央）を迎えて土俵開き。

「写真タイムス」

この年の初もの
銭湯の富士山の絵 東京・神田にお目見え

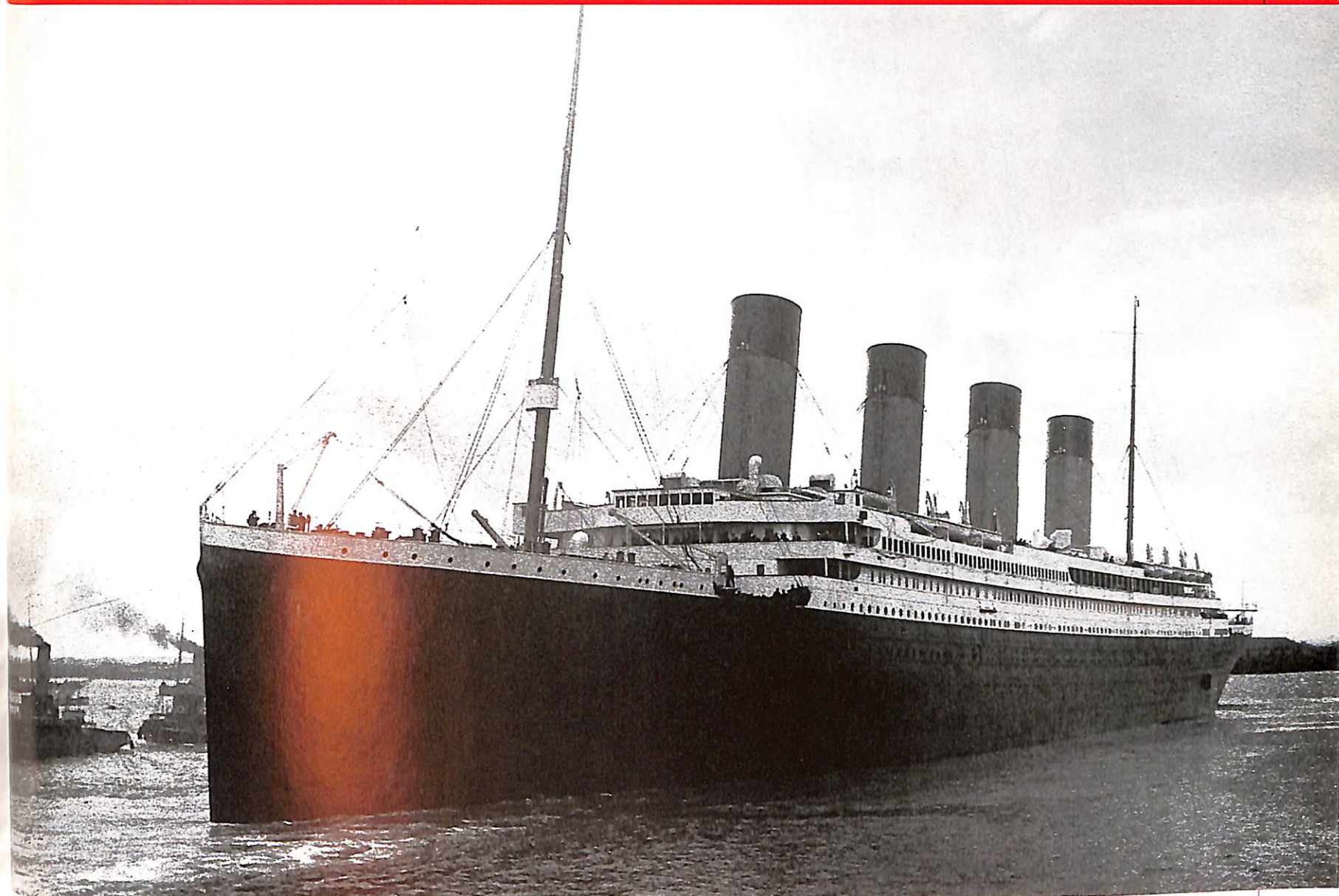
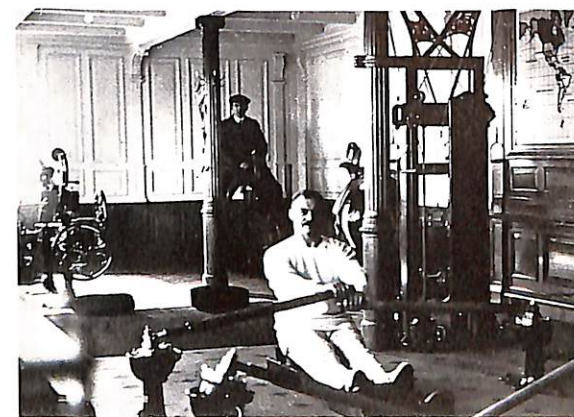
●会計事務所 五月、大阪に森田会計調査所が店開き。

●クロスカントリー 大阪―箕面間、約一二キロで開催。愛知一中の生徒（一七）が優勝し、一等賞金二〇〇円を獲得。

●警察犬 一二月、警視庁が正式に採用。

●コンクリート舗装道路 名古屋・大須観音の入り口の道路（約一六〇メートル）に、日本初のコンクリート舗装が実施された。

世界の動き

1513人の犠牲者を出した処女航海
氷山との衝突から2時間半後に北の海に沈んだ
豪華客船「タイタニック号」の悲劇！

▲1912年4月10日、アメリカに向け、イギリスのサウサンプトン港を出港する豪華客船「タイタニック号」。 Popperfoto/ユニフォトプレス(4点とも)

▲トレーニング・ルームも完備されていた。

▲その豪華さは"洋上の高級ホテル"と言われた。

▲「タイタニック号」一等船室の乗客。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

▲「タイタニック号」遭難のニュースは世界を駆けめぐった。写真は、事件を報道した新聞を販売する少年。ロンドンで。

一九一二年四月一〇日、「タイタニック号」はイギリスのサウサンプトン港を後に、ニューヨークに向け、処女航海の旅に出た。当時の最高、最新の技術を駆使し、豪華な内装をほどこしたこの巨船は、絶対に沈まない「不沈船」であるはずだった。だが、多くの富豪や著名人を乗せた「タイタニック号」は、氷山が漂う北大西洋で、悲劇の時を迎える――。

英米の名士が信頼した最新技術の「安全設計」

「おい、空から氷が降ってきたぞ。オンザロックでも作ろうか！」

一九一二年四月一四日午後一一時四〇分、北大西洋を航海中の「タイタニック号」の甲板に氷の雨が降り注いだ。乗客は、誰もそれが悲劇の始まりとは思いもよらなかった。氷山と衝突したのだが、ほとんど気にもとめない程度の衝撃だったのである。人々は呑気に氷を蹴ったり、オンザロックを楽しんでいた。その頃、衝突した氷山は「タイタニック号」の船腹を一〇〇㍍近くにわたり切り裂き、冷水が音を立てて船内を満たし始めていた――。

当時、北大西洋航路はかつてない活況を呈していた。産業革命により大量に生産された商品と、新大陸への移民で急速に拡大した輸送需要にこたえるため、多くの汽船が就航していたのである。ホワイト・スター汽船が建造した「タイタニック号」もそのひとつだった。排水㌧六万六〇〇〇㌧、長さ八八二㌳（約二七〇㍍）、乗客定員約二二〇〇人という巨大さに加え、ロココ調やエリザベス朝風に装飾された豪華な船室、同乗した二つのオーケストラと二つのブラスバンドや医師団、そしてプールやジムさえ備えた豪華さは、さながら"洋上の高級ホテル"であった。同時に、「安全設計」も注目をあびた。内部を一六の隔壁室に区切り、そのうち四区画まで浸水しても沈まないと喧伝されていたのである。最新技術を駆使したこの豪華客船を、人々は「不沈船」と呼んだ。

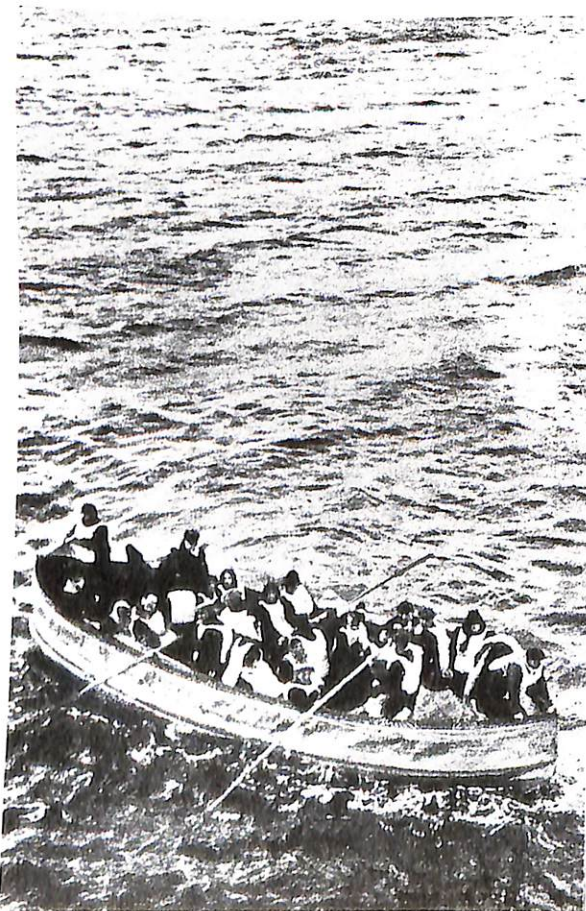
四月一〇日、「タイタニック号」はイギリスの南部、サウサンプトン港から、北大西洋をアメリカに向け処女航海に出た。一等船室の乗客は、ほとんどが英米の名士ばかり。世界最大の百貨店「メイシー」の経営者・ストラウス夫妻、アメリカの鉱山・精錬王のベンジャミン・グッゲンハイム（四七）、……まるで、欧米の社交界をそっくり乗せたようなものだった。乗客は一三一六人、乗組員は八八五人だった。

氷山の存在を知りながらなぜ徐行しなかったのか

その夜は、満天に星が輝くベタ凪だった。こうした夜は氷山を見つけにくいと言う。風があれば、氷山にぶつかる白い波頭が見えるからだ。しかもこの夜は「氷山多し」の無電が七回も入っていた。にもかかわらず、それが目の前に迫るまで、誰も気がつかなかった。

「取舵いっぱい！」

航海士が叫んだ時には遅かった。船はわずかに左に向きを変えたが、氷山は右舷にぶつかった。だが、船は何事もなかったように進んだ。しかし船内を点検したエドワード・ジョン・スミス船長（六二）は、前部五区画まで浸水しているのを確認、即座にSOS信号の発信を命令した。これが、世界で初めて発信されたSOS信号だった。

翌一五日午前一時前、救命ボートによる脱出が始まった。しかし、約二二〇〇人もの乗員乗客を乗せた「タイタニック号」には、一一七八人分の救命ボートしか搭載していなかった。当時の法律では、定員分のボートを積む義務はなかったのだ。ボートには一等船客の女性と子どもが最優先に乗せられたが、その多くは定員に満たないままだった。一号ボートに乗ったのは、定員四〇人のところわずか一二人。しかも、そのうち七人が乗組員

▲ボートに救助されて難を逃れた人々。

抗日を貫き通した金九と明治天皇崩御

佐伯 修

「ある日、外に出て作業をしていると、突然作業を中止させられ、『明治』が死んだということと、それで大赦が行なわれるということが申し渡された」

大韓帝国が日本に併合された翌年の一九一一年一月、日本の朝鮮総督府警務総監部は、黄海道を中心に、民族主義者の一斉検挙を行った。名目は、寺内正毅総督暗殺の陰謀への関与だった。「安岳事件」「百五人事件」などと呼ばれるこの事件で捕われ、一七年の刑を宣告された金九（一八七六～一九四九）は、京城（現・ソウル）の西大門監獄で服役中だったが、この年七月三〇日の明治天皇崩御による大赦などにより、結局三年ほどで仮出獄する。右の引用は、一九四六年にハングル版が出版された、金九（号は白凡）の自伝『白凡逸志』（梶村秀樹訳）からのものである。

黄海道海州の、両班から零落した常奴階級に生まれた金は、数えで一八歳で「東学」に入門、翌々年の甲午農民戦争（東学党の乱）に参加し、鎮圧のため派兵された「倭兵」（日本兵）と初めて対峙する。次いで、一八九六年早春、金は大同江の渡し場で、偶然見かけた私服の日本軍人を、前の年の秋、日本人の一団に殺害された反日派の王妃・閔妃の仇討ちと称して、いきなり殺してしまう。そして、愕然として遺体の処置にとまどう舟宿の主人にこう告げるのだ。「倭奴は、たんにわが国と国民の仇であるばかりでなく、水の中の魚たちにとっても仇なのだから、この倭の死体を河に沈めて、魚たちに国の仇の肉を食わせるようにせよ」

この一件で金は逮捕されるが、まもなく逃亡し、冒頭の服役中も、まんまと日本側に前歴を隠し通す。その後、上海に渡った金は、一九一九年、亡命中の独立運動家たちが、李承晩を首班として同地に樹立した「大韓民国臨時政府」に参加、対日テロ工作の元締めとなる。三二年、東京で起きた昭和天皇暗殺未遂「桜田門事件」や、上海での「虹口公園天長節爆弾事件」は、いずれも金が直接指揮したものだった。

さらに、日中全面戦争が開始されると、金は蒋介石の支援のもと、抗日「韓国光復軍」を組織したが、間もなく「倭敵が降服した！」との知らせを受け「嬉しいニュースというよりは、天が崩れるような感じのことだった」と述べている。

戦後、帰国した金は、左派の極にある金日成に対する政界の右派の極として、民族分断阻止に奔走する。だが李承晩と対立、朝鮮戦争の悲劇を見る前に暗殺された。

▶青年時代、一時、安重根の実家に同居。

だった。ボートの多くは溺れかけている人を助けようとはせず、後に批判のまとになった。その頃、船の下部にある三等船室では、なんとか甲板に出ようとする乗客が大混乱におちいっていた。

この危機に際しても、一等船客の多くは、紳士淑女としてふるまった。グッゲンハイムは「どうせ死ぬなら、紳士らしく死のう」と、救命胴衣を脱いで夜会服に着替えた。ほかにも、夫のそばを離れず、運命をともにした女性の姿もあった。

午前二時一八分、「タイタニック号」は船尾を上に沈んでいった。氷山との衝突から、わずか二時間半後である。ボイラーやエンジンが床から引きちぎられる大音響が静かな海にこだましたが、人々の叫び声はそれ以上のすさまじさだった。世紀の巨船「タイタニック号」は、一五一三人を道連れに大西洋に没したのである。ニューファンドランド島から南東に九〇〇キロの地点だった。

「この事故には、さまざまな要因がからんでいます」と言うのは、『豪華客船の文化史』の著者である九州急行フェリー・野間恒社長である。

「もともと『タイタニック号』は乗客定員分の救命ボートを積む計画でしたが、海軍省の法律改定が遅れ、旧法が定めたボート数しか積みませんでした。また処女航海を盛大に祝う祝賀会がニューヨークで予定されていたため、スミス船長は氷山の存在を知ってはいても、徐行して到着予定が遅れることを嫌ったのでしょう」

ニューヨークの連邦地裁で行われた賠償訴訟では、一等船客に五万ドル、移民には一〇〇〇ドル、総額二五〇万ドル（当時のレートで約五〇〇万円）の賠償金が払われた。日本のサラリーマンの年収が八〇〇円前後だった時代のことである。

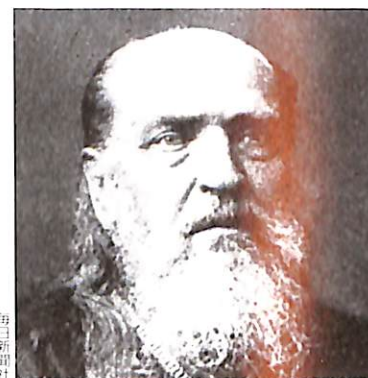
多くの命とともに沈んだ「タイタニック号」は、一九八五年に米仏合同探検隊により深さ四〇〇〇メートルの海底で発見され、一九九七年にはこの悲劇を扱った映画が大ヒットとなった。また、「新タイタニック号」を建造・就航させる計画が浮上するなど、沈没から一〇〇年近く経った今も、人々の心を魅了し続けている。

▶奇跡的に救出された乗客の中にただ一人、日本人がいた。作曲家の細野晴臣の祖父で、鉄道院副参事だった正文氏である。写真は六月三日、横浜に帰国した正文氏と出迎えの家族。

「写真タイムス」

往きて還らぬ

▲1月4日　伊地知彦次郎(51)
明治期の海軍軍人。日露戦争で連合艦隊の旗艦「三笠」の艦長をつとめ、日本海海戦ではバルチック艦隊を撃破した。

毎日新聞社

▲2月16日　ニコライ(75)
ロシア正教会の宣教師、大主教。文久元年(1861)来日し伝道を開始。明治24年東京·駿河台にニコライ堂を建立。

▲2月28日　池辺三山(47)
明治期のジャーナリスト。大阪·東京朝日新聞主筆をつとめ、徳富蘇峰·陸羯南とともに明治の三大記者と言われた。

▲2月28日　高崎正風(75)
明治期の代表的な歌人。薩摩藩士で討幕運動にも貢献。明治政府の枢密顧問官、御歌所所長を兼任。

▲3月30日　藤田伝三郎(70)
明治期の実業家。西南戦争では軍需品輸送で巨利を得、明治14年藤田組創設。鉱山業などで関西財界のリーダーに。

▲5月30日　ウィルバー・ライト(45)
米国の飛行機製作者。弟のオービルとともに、1900年にグライダーを完成。1903年人類初の動力飛行に成功。

▲5月14日　J・ストリンドベリ(63)
スウェーデンの小説家。1879年『赤い部屋』で認められる。近代劇運動の先駆者でもあり、戯曲に「父」など。

▲6月14日　松旭斎天一(59)
明治期の奇術界の第一人者で、西洋奇術·水芸などで人気を集めた。松旭斎天勝は弟子で、愛人でもあった。

毎日新聞社

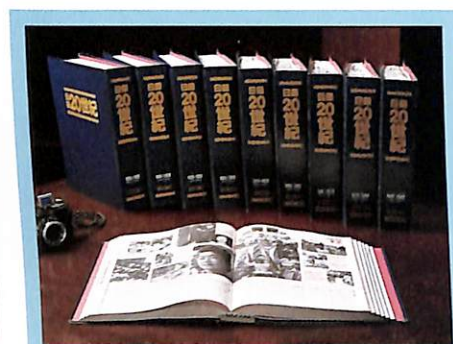
▲7月6日　菊池武夫(57)
法学者で、明治21年初の法学博士に。英吉利法律学校(中央大学の前身)創立に参画、38年中央大学初代学長。

▲8月20日　ウィリアム・ブース(83)
英の宗教家で、救世軍の創始者。1864年にロンドンの貧民地区で伝道を開始し、1878年救世軍設立。1907年来日。

▲9月7日　田岡嶺雲(41)
明治期の評論家。明治28年雑誌「青年文」創刊、革新的批評で〝明治文壇の異彩〟と呼ばれる。評論集『嶺雲揺曳』。

▲10月5日　穂積八束(52)
法学者。君権絶対主義憲法を提唱。明治30年東京帝大法科大学学長、32年貴族院議員。法学者·穂積陳重は兄。

毎日新聞社

▲12月2日　川崎正蔵(75)
実業家。幕末からの貿易商で明治11年川崎造船所(現·川崎重工業)創設。美術品収集家としても知られる。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

1913 大正2年 週刊 日録20世紀 811 ¥560 講談社

野口英世の栄光と錯誤

"大正政変"桂内閣崩壊までの55日 小林一三、「宝塚少女歌劇」をスタート! 「T型フォード」コンベア組み立て稼動!

第73号 7月28日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1913［大正2年］

●特集
梅毒と中枢神経系疾患の関係解明！"ノーベル賞候補"野口英世の栄光と錯誤／小林一三の意表をつくアイディア「宝塚少女歌劇」一六人で発足！／民衆が主役の「大正政変」起こる "長州閥"桂内閣崩壊までの五五日！／デトロイトの「水晶宮」工場で「T型フォード」コンベア組み立て稼動！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…エジソンがトーキー映画を公開（1月3日）／東西大角力、二六年ぶりに和解（2月19日）／京都帝大「澤柳事件」起こる（7月12日）／袁世凱軍、南京占領。中国第二革命失敗（9月1日）／最後の将軍・徳川慶喜が死去（11月22日）／タゴールにアジア初のノーベル賞（12月10日）

●人物クローズアップ
岩波茂雄、教職から出版へ！

●決定的瞬間
ロマノフ王朝"誕生三〇〇年"と皇帝一家

●美の出会い
大作「大菩薩峠」を飾った画家たち

●女たちの肖像…黒田チカ、東北帝大理学部へ入学／勝者・敗者…第一回東洋五輪／証言・あの日この日…鈴木茂三郎、芥川龍之介／「現場」を歩く…溜池・葵館と日本映画史／20世紀博物館…山梨宝石博物館（山梨）／外から見たNIPPON…米紙特派員が綴る旅順口の乃木将軍

●ベストセラー…森鷗外『青年』／スターと名場面…弁士・駒田好洋の全国巡業／モノ語り'13…「森永ミルクキャラメル」

ミニ事典
1912年のキーワード

婦人専用電車
鉄道院が女子学生に対する痴漢防止のために、一月三一日から東京の中野―昌平橋間で運転した電車。八時一四分の中野発二両連結の二両目があてられ、男性の乗車を禁じた。この頃、都心の学校にかよう女子学生を満載した電車を「花電車」と称し、混雑に乗じて、付け文し、耳元にささやきかけ、身体に触れるなどの不心得者が続出。それを嫌って、車や徒歩通学に切り換えるものもあり、対策が求められていた。

保善社
安田善次郎（一八三八～一九二一）が一代で築き上げた、安田財閥の中核となる持ち株会社。第一、三井と並ぶ大銀行・安田銀行をはじめ、東京建物、帝国製麻、両毛鉄道、共済五百名社（後の安田生命）、帝国ホテル、安田鉄工所などの傘下企業の株を所有し経営を支配。三井、三菱、住友とともに四大財閥を形成。戦後の財閥解体により消滅した。

▲安田善次郎。幕末に玩具行商から立身した。東大安田講堂寄贈でも知られる。

大陸移動説
現在の大陸は、かつてひとつにまとまっていたものが分裂、移動して生まれた、とする学説。ドイツの気象学者で地球物理学者のウェゲナーが、一月六日、フランクフルトの地質学会で発表した。この説は、大陸がなぜ動くのかという問題を解決していなかったことから、長い間忘れられていたが、一九五〇年代の地磁気学の発展によって復活、七〇年代のプレートテクトニクス理論によって定説となった。

ラグタイム
ジャズの起源のひとつにあげられるピアノ音楽。一九世紀末の黒人ピアニストの間から発生。シンコペーションをきかせた四分の二または四拍子のリズムが、独特のダンスステップをはやらせた。二月八日付「ニューヨーク・アメリカン」紙が新流行として紹介、「野卑でむかつく」と非難し、保守層の喝采をあびた。

三教会同
神道・仏教・キリスト教の三宗教が、一丸となって国に協力することを確認した会合。不況による混乱、社会主義などの勃興に対し、二月二五日、原敬内相が、三教代表七一人を招いて懇談会を開催した。宗教を国民教化に利用しようとする試みで、政府からは四人の大臣が出席。翌日、皇運扶翼・国民道徳振興を決議し、政府は宗教の尊重を約束した。

「写真タイムス」

▲2月25日、三教会同の会場となった華族会館（元・鹿鳴館）に入る、宗教界の代表者たち。

帝国学士院賞
帝国学士院が、民間からの寄付をもとに設立した賞。学術上、特に優れた業績に対して贈られるもので、五月一二日、高峰譲吉が受賞したのが最初。帝国学士院は明治三九年、学会最高の審議機関として創設、六〇人の終身会員が運営、授賞も主要事業のひとつ。ほかに、皇室からの下賜金を基金とした恩賜賞などがあり、昭和二二年に日本学士院に引き継がれた。昭和六三年には、英・エジンバラ公の寄金によるエジンバラ公賞も創設された。

六国借款団
中国への借款を英・仏・独・米・日・露の列強六ヵ国が協調して行うための銀行組織。六月一八日、成立。日本代表は横浜正金銀行が参加した。話し合いの過程で実業・鉄道借款が対象からはずされ、また日・露による満蒙（中国東北部と内モンゴル）独占支配排除を借款団参加の目的とした米国が脱退するなど紛糾したが、翌年、中国政府に対して、五国借款団が合計二五〇〇万ポンドを貸与することが決まった。

第三回日露協約
満州進出をねらう米国を、日露両国で協力して阻止し、中国での両国の地位をさらに強固にするために、七月八日に調印された協約。明治四三年に締結された第二回日露協約の秘密協定のみを改定。内モンゴルにおける特殊利益のうち、東側半分を日本、西側をロシアのものとした。この交渉を通じて日露関係は緊密なものとなり、第四回協約では攻守同盟に発展したが、ロシア革命により空文化した。

天長節
天皇誕生日の旧称。光仁天皇が宝亀六年（七七五）に「天長節の儀」を行ったのが最初で、明治元年の太政官布告により慣例化。元日の四方拝、二月一一日の紀元節とともに三大節と呼ばれた。明治天皇崩御により、天長節は明治天皇誕生日の一一月三日から大正天皇誕生日の八月三一日に変更。昭和二年、新たに一一月三日を明治節と定め、四大節とした。

バルカン同盟
ロシアの仲介で、モンテネグロ・ブルガリア・セルビア・ギリシャのバルカン四国が、個別に秘密裏に結んだ軍事同盟の総称。一〇月二九日のブルガリア・ギリシャ軍事協定調印で成立。四国にはバルカンからイスラム勢力を駆逐しようという意図があり、一〇月にトルコに対して次々に宣戦布告。南進をねらうロシアには、敵対するオーストリアに対する障壁として四国を利用しようという意図があった。

第一次護憲運動
藩閥中心の官僚政治に反対し、政党政治の確立を掲げた運動。憲政擁護運動とも。第二次西園寺内閣が二個師団増設問題で倒れ、藩閥の巨頭、桂太郎が内閣を組織すると、一二月一九日、反対する政党・新聞記者らが東京で憲政擁護大会を開催した。同調者は全国に拡大、翌年、数万人もの群衆が議会を包囲、内閣を総辞職に追いこんだ。大正一三年には、清浦奎吾内閣に対する第二次護憲運動が起こった。

「写真タイムス」

▲東京の歌舞伎座で行われた、第1回憲政擁護大会。入場料20銭。参加者は3000人を超えた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1912

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋茂村巨利＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー・シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 結城順 吉田忠正

●写真協力
石井行昌 大畑俊男 岡畏三郎 河合能平 斎藤ミツ子 但馬憲
田中純一郎 服部晶一郎 平山亮 山口隆司
ARCHIVE PHOTOS 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 至文堂 デジタルハウス PPS Popperfoto 毎日新聞社 ユニフォト・プレス
通天閣観光会社 森永製菓 吉本興業
アート・カタログ・ライブラリー 池田文庫 岩手県立博物館 大宅壮一文庫 京都府立総合資料館 クッのオーツカ資料館 県市企画部海事博物館推進室 国立国会図書館 埼玉県立近代美術館 GRANGER 三康図書館 白瀬南極探検隊記念館 たばこと塩の博物館 中国文化省 東京国立近代美術館 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本美術家連盟 日本漫画資料館
北海道大学 水島衣裳雑貨博物館 宮崎県立総合博物館 明治神宮
東京大学明治新聞雑誌文庫 早稲田大学演劇博物館

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀 1912

●明治天皇崩御！

8月4日号

第2巻第29号 通巻72号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社 講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

定価560円

雑誌 23711-8/4
Ⓛ-2001/1/1
T1123711080563

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社